

令和4年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

本市児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 調査対象 小学校第6学年 中学校第3学年
- (3) 調査内容
 - 国語 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 算数・数学 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 理科 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要 （令和4年度と悉皆調査実施年度との比較）

(1) 全国・千葉県・指定都市の平均正答率(%)と千葉市全体の結果（ここでの全国は、公立のみを示す）

【資料1】問題別平均正答率一覧(%) [全国・千葉県・指定都市・千葉市] <平成26～令和4年度>

【資料1】問題別平均正答率一覧(%) [全国・千葉県・指定都市・千葉市] <平成26年度～令和4年度>

	全国 平均正答率		千葉県 平均正答率		※指定都市 平均正答率		千葉市 平均正答率		全国との 比較		
	令和4年度	令和3年度	令和元年度	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
小学校	国語	66	65	63	66	65.0	64	67	65	1	±0
	算数	63	70	67	63	71	67	64	71	1	±0
	理科	60	60.8	61.9	63	61	61	65	62	2	2
	国語	71	75	73	70	75	73	71	76	0	-1
	算数	64	79	78	62	77	78	64	78	-1	2
	理科	60	60.8	61.9	61	61	61	65	62	2	2
	国語	55	58	58	53	57	58	54	59	1	1
	算数	52	46	47	51	46	47	52	48	-1	2
	理科	60	60.8	61.9	61	61	61	65	62	2	2
	国語	65.4	65.8	65.8	64.5	65.7	65.3	65.6	65.6	2.8	0.2
算数	65.5	65.8	65.8	64.5	65.7	65.3	65.6	65.6	4.2	1.8	
理科	65.5	65.8	65.8	64.5	65.7	65.3	65.6	65.6	4.2	1.8	
中学校	国語	69	65	73	68	65	73	69	66	±0	1
	算数	51	57	60	50	56	60	52	58	1	-1
	理科	49	66	53.0	48	65	67	50	67	1	1.5
	国語	76	77	76	61	61	62	76	62	0	1
	算数	47	48	48	46	47	48	47	47	-1	0
	理科	49	66	53.0	48	65	67	50	67	1	1.5
	国語	61	67	67	61	67	67	62	68	1	1
	算数	47	48	48	46	47	48	47	47	-1	0
	理科	49	66	53.0	48	65	67	50	67	1	1.5
	国語	65.8	65.8	65.8	65.7	65.7	66.3	67.2	67.2	1.8	1.4
算数	41.6	41.6	41.6	41.6	43.0	43.0	44.9	44.9	1.1	3.3	
理科	49	66	53.0	48	65	67	50	67	1	1.5	
国語	51.0	51.0	51.0	51.7	51.5	51.5	53.0	53.0	1.3	2	
算数	41.6	41.6	41.6	41.6	43.0	43.0	44.9	44.9	1.1	3.3	
理科	49	66	53.0	48	65	67	50	67	1	1.5	

※国語と算数・数学の問題は、基礎的な知識を尋ねる「A問題」と、その知識の活用力をみる「B問題」に分かれていたが、平成31年度（令和元年度）より新学習指導要領の方向性に沿う形でA、Bを一体的に問う問題へ改善

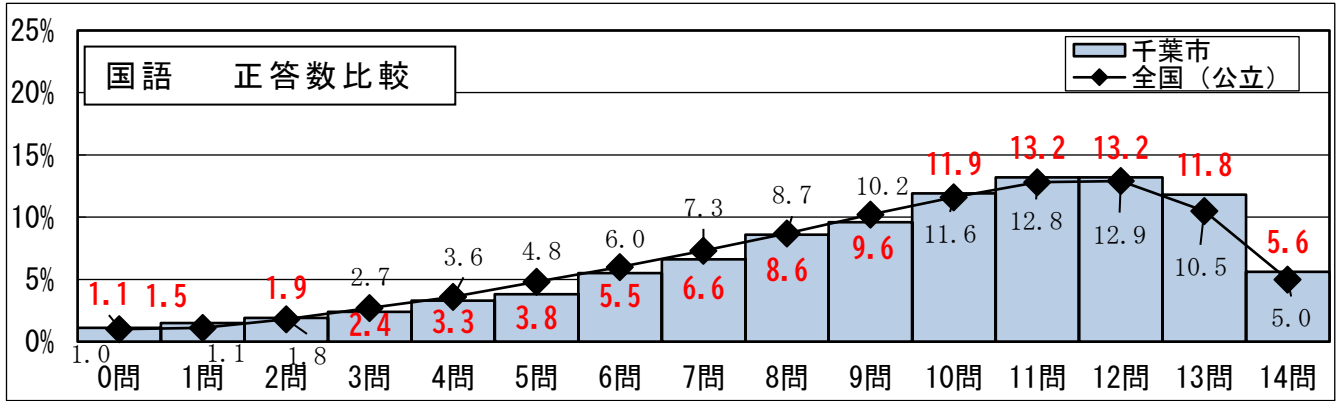
※平成28年度より平均正答率は整数値で公表

※「指定都市」の正答率はH29年度より。H28年度より以前は「大都市」として政令指定都市と東京23区を集計。

※指定都市の平均正答率は、公立のみの数字である。

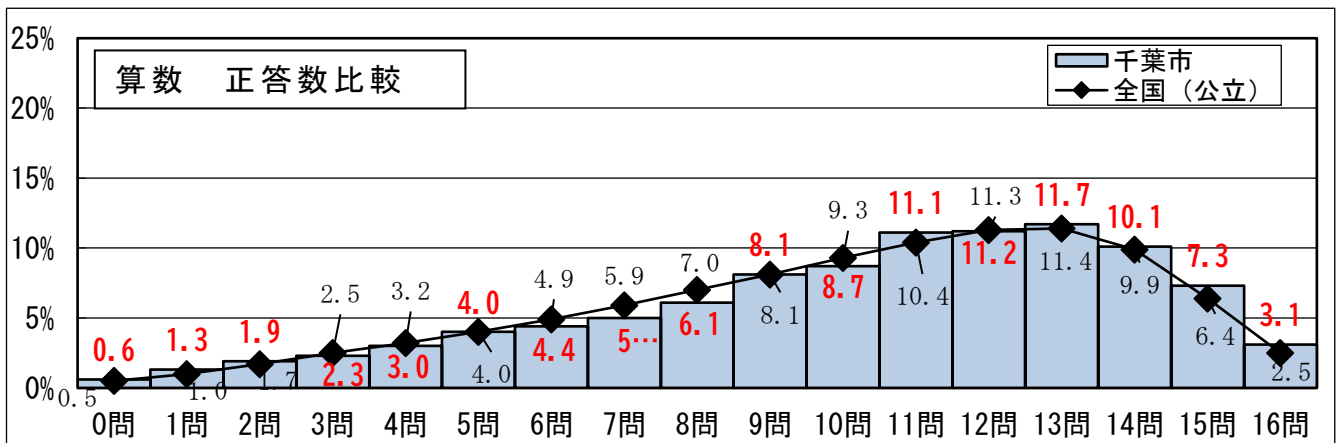
(2) 正答数の分布 (全国との比較)

【資料2】正答数分布 (横軸: 正答数、縦軸: 人数の割合) [全国・千葉市] <令和4年度>
小学校6年生国語



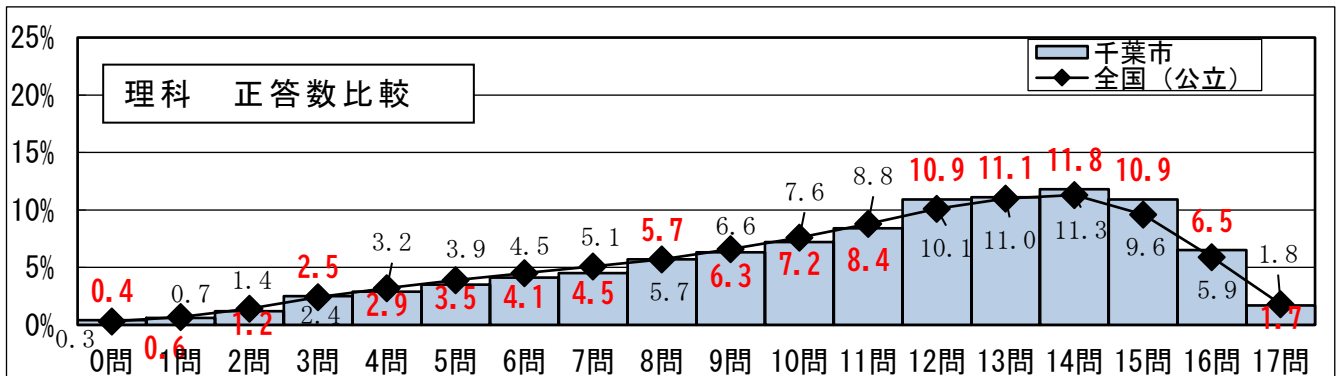
	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.3 問 / 14 問	67%	10.0	3.3
全国 (公立)	9.2 問 / 14 問	66%	10.0	3.3

小学校6年生算数



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	10.2 問 / 16 問	64%	11.0	3.7
全国 (公立)	10.1 問 / 16 問	63%	11.0	3.6

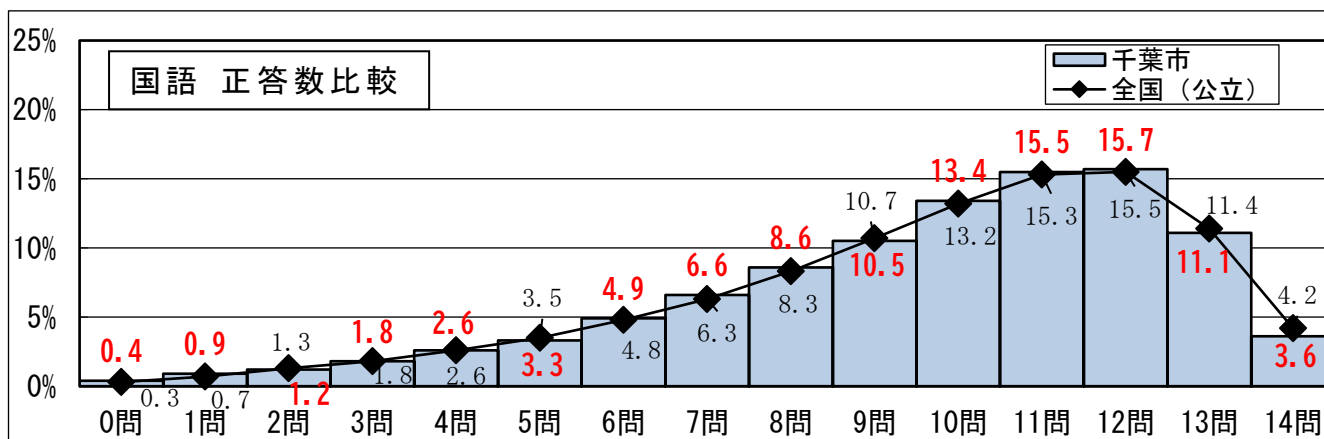
小学校6年生理科



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	11.0 問 / 17 問	65%	12.0	3.8
全国 (公立)	10.8 問 / 17 問	63%	11.0	3.8

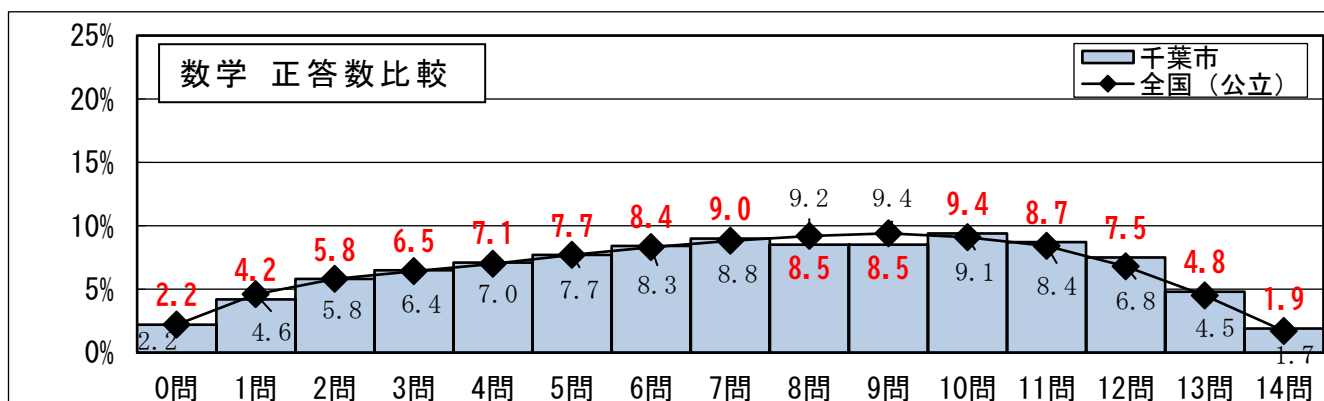
- ・国語では、平均正答数が全国より0.1問高く、平均正答率は1ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっている。正答数が0～2問の層と10問以上の層の割合が、全国と比較してやや高くなっている。
- ・算数では、平均正答数は全国より0.1問高く、平均正答率は1ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっており、全国よりも13問以上の上位層の児童の割合が高くなっている。
- ・理科では、平均正答数は全国より0.2問高く、平均正答率は2ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっており、全国よりも12～16問の上位層の児童の割合が高い右寄りの形となっている。
- ・3教科共通して、上位層の学習のさらなる充実を図るとともに、正答率が低い層への学習指導を見直し、中位層に引き上げることが課題である。

中学校3年生国語



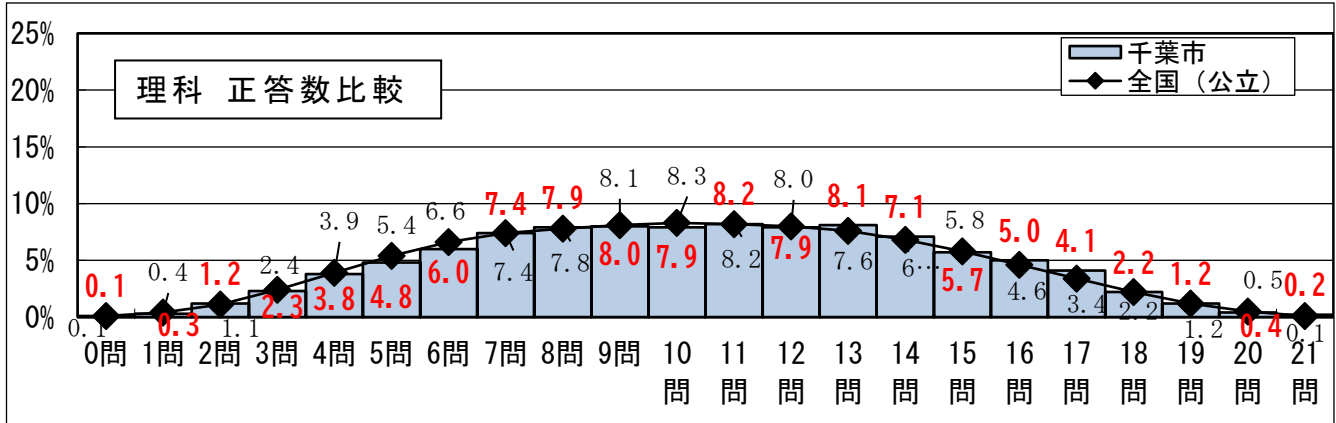
	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.6問 / 14問	69%	10.0	2.9
全国(公立)	9.7問 / 14問	69%	10.0	2.9

中学校3年生数学



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	7.3問 / 14問	52%	7.0	3.6
全国(公立)	7.2問 / 14問	51%	7.0	3.6

中学校 3 年生 理科



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	10.5 問 / 21 問	50%	11.0	4.1
全国 (公立)	10.4 問 / 21 問	49%	10.0	4.1

- ・ 国語では、平均正答数は全国より 0.1 問低いですが、平均正答率は全国と同等である。正答数の分布は、全国と同様に正答数の多い生徒の割合が高い、右寄りの山型のグラフになっている。正答数が 10～12 問の上位層の割合が全国よりも高くなっている。下位層と中間層の引き上げを図ることが今後の課題である。
- ・ 数学では、全国より平均正答数は 0.1 問、平均正答率は 1 ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に中央がやや高いなだらかな山型となっている。下位層の引き上げを図ることが今後の課題である。
- ・ 理科では、全国より平均正答数は 0.1 問高く、平均正答率は 1 ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に中央がやや高いなだらかな山型となっている。下位層の引き上げを図ることが今後の課題である。

(3) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移<令和3年度と4年度の比較>

【資料3】全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

令和3年度の全国と各学校の正答率の差と令和4年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

出題される問題が毎年異なり、母集団の児童生徒も異なっているが、学校の傾向を把握するため、経年比較を行う。

ア 小学校（条件：令和3年度または令和4年度の該当学年の調査実施児童数が40人以下の学校については、調査母数による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

推移表記 ㊦:全国平均との差が大きく向上 ㊧:全国平均との差が向上 空欄:全国平均との差に大きな変化がない ㊨:全国平均との差が低下

学校名	国語	算数
新宿	㊧	
本町	㊨	
寒川		
登戸	㊨	㊩
院内		㊨
蘇我	㊨	㊩
都	㊨	㊨
都賀		
検見川		㊧
稲毛		㊨
園生	㊩	㊩
若松	㊧	㊧
大森		
稲丘		
花園		㊧
懐橋		㊨
幕張		㊨
長作	㊩	㊨
生浜	㊧	㊧
誉田		
轟町		
鶴沢		
平山		㊧
松ヶ丘	㊧	㊨
宮崎	㊨	
緑町	㊧	㊧
川戸	㊨	㊩
山王	㊨	㊨
小中台		㊧
小倉	㊧	
千草台	㊧	㊧
稲毛二	㊧	㊧
星久喜	㊨	㊨
幕張東	㊨	㊨
土気	㊧	
桜木		
宮野木		㊨
生浜西	㊧	㊧

学校名	国語	算数
こてはし台	㊧	
西小中台		㊨
さつきが丘東	㊨	
北貝塚		
幕張西		
草野	㊨	㊨
柏台	㊧	
千城台東	㊧	㊧
小中台南		㊧
幸町三	㊩	㊩
高洲三	㊨	㊧
作新		㊨
みつわ台北	㊧	
誉田東		
みつわ台南	㊧	㊧
幕張南		
都賀の台		㊧
上の台		㊧
磯辺三		
生浜東	㊧	㊧
泉谷	㊧	㊧
土気南		㊨
西の谷	㊧	
小谷	㊧	
有吉	㊧	㊧
打瀬	㊨	㊨
金沢	㊨	
あずみが丘	㊧	㊧
扇田	㊧	㊧
海浜打瀬	㊨	
おゆみ野南		㊨
美浜打瀬	㊧	㊧
真砂東		
真砂西		㊧
磯辺	㊧	㊧
幸町	㊨	㊨
千城台わかば		
千城台みらい		

イ 中学校（条件：令和3年度または令和4年度の該当学年の調査実施生徒数が80人以下の学校については、調査母数による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

推移表記 □：全国平均との差が大きく向上 ▲：全国平均との差が向上 空欄：全国平均との差に大きな変化がない ▼：全国平均との差が低下

学校名	国語	数学
加曽利		▼
葛城	▲	
椿森	▲	
緑町		▲
小中台	▲	
花園	▲	
新宿		▼
蘇我	□	□
幕張	▲	
生浜	▲	▼
誉田	□	
轟町	▲	▲
松ヶ丘	▲	
稲毛	▲	▲
こてはし台	▼	▼
草野	▼	▼
幕張西	□	
都賀	▲	
みつわ台		

学校名	国語	数学
緑が丘	▲	
天戸	▲	
若松	▲	
幸町二	▲	
山王	▲	
稲浜		
朝日ヶ丘	▲	▲
貝塚		▲
泉谷	▼	▼
幕張本郷		▲
土気南	▼	▼
打瀬	▲	
有吉		▼
大椎	▼	▼
真砂		
おゆみ野南	▲	
磯辺	▼	
花見川	▲	
高洲	▲	

【資料4】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組事例<経年推移の比較から>
顕著な向上が見られた学校からは、以下のような取組が報告されている。

ア 小学校

学校名	取組内容
若松小	児童の興味に沿って、わかりやすい授業づくりをした。ICTを積極的に活用し、調べたりまとめたりする活動を取り入れ、児童が自ら学習したいという気持ちを育てたり、個に合わせた指導を行ったりすることに役立てている。家庭学習推進のために、宿題の内容を漢字と計算に固定し、習慣化したことで基礎基本の定着を図った。理科は5年前期までの専科、後期の理数サポーターのきめ細かい指導により学習意欲が高まった。
生浜小	学力向上アクションプランの重点項目として、朝学習やギガタブの活用を中心とした基礎・基本の定着に取り組んでいる。特に朝学習は、毎月1回定着を図るテストを位置づけ、保護者にも学年だよりで周知している。家庭の協力も得やすくなり、児童の意欲と基礎学力の向上につながっていると考える。国語では、「読むこと」の正答率が向上した。特に登場人物の人物像、行動や気持ちを考える問題は、県、全国を上回っている。昨年度まで3年間、校内研修で国語の「読むこと」を重点に取り組んだ。物語文では叙述を、説明文では筆者の考えや資料など、根拠を明確にして自分の考えをもつ学習を繰り返してきた成果と考える。
緑町小	全国の平均正答率と本校を比較すると、3教科とも概ね平均を上回る結果となった。これは本校が、「つなぐ つながる つなげるを意識した学習活動の充実」という学力向上宣言を策定し、各教科での振り返りの時間や、「発見みどりカード」などを書く時間など児童の言語活動を充実させることを積み重ねてきたことが結果につながったのではないかと考えている。こうした言語活動の充実により、国語の思考力、判断力、表現力等のB「書くこと」の力が、全国平均正答率と比べて15.9%上回ることに繋がったのではないかとと思う。

	<p>本校は理科・生活科を研究教科として研究を進めているが、その中で「一つの課題に対して、意欲的に答えを出そうとする児童の姿は見られるが、他の方法を探したり、粘り強く継続して学習したりする児童は少ない」「自分の考えをもつことはできるが、それを伝える力が弱い」などの課題がある。こうした課題に対し、学力向上アクションプランと校内研究を中心に「主体的、協働的に学んで問題解決する子供の育成」を目指して取組を進めている。1つ目は学習ノートの充実である。国語・算数・理科・社会のノートの書き方を職員で共有し、どの教科においても自分の考えをもとに、友達と協働する活動を通して学んだことを整理してまとめることができるようにノート指導を進めている。こうしたノート指導を充実させることで、児童は「思考の再整理」が進み、自分の考えに自信をもって友達に伝え、グループでの話し合いを通して思考をさらに深めることができるようになるのではないかと考えている。2つ目は朝の帯時間の活用である。主体的、協働的に学んで問題解決するためには、友達と関わり合うための力を伸ばすことが必要となる。そこで朝の帯時間に「学び合いタイム」を設け、①結論、理由の順に話す ②話を聞き、感想や質問を伝える ③友達と協力する という3つの力を伸ばすことができるような活動を積み重ねていくことで力をつけようと考えている。</p>
千草台小	<p>令和3年度の5学年では、一部教科担任制を採用して学習指導を行った。教科を絞って教材研究を行うことで、学習内容の定着に寄与したと考えられる。加えて、朝学習としてドリルタイムを設け、全校を挙げて基礎基本の定着を図った。顕著な向上は見られなかったが、国語の「話すこと・書くこと」「読むこと」について思考力、判断力、表現力等の正答率と、算数の「数と計算」の正答率に向上が見られた。</p>
稲毛二小	<p>国語では、漢字の習得率が向上した。週の初めに7～8文字ずつ読みや書き順を確認し、漢字ノート1ページに2文字ずつ練習するなど、スモールステップで学習を進めている。また、その漢字を使って簡単な文章を作文するなど、普段の生活に生かせるよう工夫している。算数では、求め方や理由などを記述で答える問題の正答率が高かった。日頃から、「どうしてそうなるのか」を考える過程を大切にしながら学習を進めている。また、既習事項を活用したり、複数の考え方で求めたりするなど、児童が自分の力で考えていけるように指導している。学習全体を通して、ギガタブなどのICT機器の活用にも努めている。教科書のQRコードを読み取り、全体で共有することで、視覚的に捉えやすくしている。また、デジタル教科書を用い、必要な部分だけを提示したり、図に直接書き込んだりすることで、思考の流れを整理し、理解の定着につなげている。</p>
生浜西小	<p>昨年度に引き続き、学習意欲を高める基盤として、生活面を整えることを職員間で共通理解を図った。「挨拶運動」「靴箱の整理」「毎月の生活・いじめアンケート」などを活用し、安全・安心な環境でどの児童でも頑張れば評価される環境を整えた。学習面では、校内研究や研修も活用して効果的な指導等について共有し、指導改善を図っている。</p>
千城台東小	<p>児童の「できた！わかった！」を引き出せるように、とにかく繰り返し問題を解き、学習内容の定着を図った。また、基礎学力の向上を目指し、授業の初めに既習事項を扱った帯活動を行った。算数であれば百マス計算をして四則演算がより速く、正確に行えるように、国語であれば部首集めゲームなど漢字に焦点を当てることで漢字により親しみをもてるようにした。支援を要する児童には個別に対応するなど、個に応じた支援を心掛けた。</p>
みつわ台南小	<p>学力向上アクションプランに組み込み、基礎基本の定着に力を入れている。全校を通して共通した取組は主に①朝活動の充実と②家庭学習の強化である。朝活動では、担任外の職員を中心に担当を決め、指導のサポートに入った。多くの職員が関わることで、個に応じた声掛けができ、一人一人の課題解決だけでなく、認められることで学習の意欲の向上にもつながった。②家庭学習の強化では、家庭学習の進め方について校内で統一をはかり、4月の懇談会で保護者にも周知した。また、学習システム内のプリント作成アプリを活用し、反復</p>

	練習にも力を入れた。今後も、子供たちの学習意欲を高めつつ、繰り返し取り組むことで、まずはしっかりと基礎基本を定着できるようにしたい。
生浜東小	国語・算数ともに記述形式の正答率が向上した。令和3年度5年生の取組として語彙カプリントを家庭学習で継続的に取り入れたり、ギガタブを用いたブックトークを毎月実施したりしたことで、自分の気持ちや考えを表現する力が向上したものとする。読書に慣れ、文章を読んだり書いたりすることに対する抵抗が減少したことも要因と考える。また、昨年ICTの研究に取り組み、ギガタブを用いた話し合い活動を積極的に取り入れたことで表現力の向上につながったと考えている。国語では学力向上アクションプランを基に、ミニ漢字テストの実施と家庭学習の充実を図ったことで言語領域の向上につながった。算数では毎時間、前時の既習事項を確認する掲示物を作成し、授業で本時で大切にしたい見方や考え方を明確にして授業を行ったことで児童の思考・判断・表現の向上につながった。
泉谷小	国語科、算数科、理科全てにおいて全国平均を上回った（昨年度の国語科、算数科は下回っていた）。また、記述式の正答率も昨年度より向上した。研究教科である算数科では、問題解決型の学習の確立に取り組む等の授業改善を行った。今まで学習したことを生かして考えることや自分の考えの根拠を説明すること、複数の考えからよりよい方法を選択すること等「問題に直面したときにどのような方法を使えばよいのか」という経験を日々の授業の中で積み重ねてきた。これは、算数科だけでなく、他教科にも関連しており、国語科、理科の記述式の正答率が同様に向上したのも、児童が学んだことを生かして、あきらめずに取り組んだ成果の表れではないかと考える。また、ギガタブを積極的に授業に活用することで、友達同士で考えを伝え合う活動の充実につながり、記述式の正答率を高めたとも考える。理科においては、本校は専科教諭が配置されており、実験での担任とのTTによるきめ細やかな指導ができていることも向上した要因だと考えられる。全学年において理数サポーターによる個に応じた指導・支援が行われるように教育課程の編成を行った。各学級で調整し、できるだけ単元の習熟の時間に効果的に指導・支援できるように工夫した。
有吉小	学力テストや学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年や教科の課題や今後の取組を話し合った。それをもとに①朝のチャレンジタイム15分間を使い、基礎基本の繰り返し学習を行い、習熟を図る②校内で「自分の考えや思いを主体的に表現できる子どもの育成」として算数科におけるICTの活用を研究し、ギガタブを効果的に活用し、意欲的に学習に取り組む児童の育成を図る授業を行う等の取組を行った。また、学力が著しく低い児童に対しては、保護者の同意を得て週1回程度取り出して学習を行い、苦手分野の補習を行っている。
あすみが丘小	本校と千葉市の正答率の差を昨年度と比較すると、国語の「書くこと」をはじめ、全領域が向上している。これまで本校は国語を研究教科とし、様々な取組を行ってきた。まず、向上の要因と考えられるものは、語彙力を増やすための掲示物である。校内に慣用句を、学年掲示板に言葉集を掲示したことで、言葉に慣れ親しみ、全領域の底上げにつながったと思われる。また、昨年度までの2年間は「読むこと」を基盤に、主体性を高めるために様々な言語活動の研究に力を入れた。必要感を感じられる言語活動を設定することで、自分の考えをもち、書いたり、話したりすることによってそれを深めることができた。自分の考えをもつこと、色々な形の言語活動で深めることを繰り返したため、子どもたちに「書く力」「話す力」が向上したのだろう。さらに、これまでの本校は文字数や文体などに条件のある記述問題に課題があることから、国語以外の教科や日記などでも、「書く活動」の際には様々な条件を設けるなどした。そうしたことを毎日繰り返したことが、子どもたちの力の向上を大きく支えていたと考える。
扇田小	特に算数の正答率が高かった。普段の授業では、自力解決の時間をしっかりと自分自身の考えをもつための支援を行うようにしている。比較検討では、友達の考え方を積極的に聞き、考え方を広げるようにしている。また、理科は専科

	教員が授業に当たり、専門的な指導を行っている。観察や実験に関しては、映像のみで終わらせるのではなく、実物に触ったり実際に行ったりする体験を伴った活動を重視して授業づくりを行っている。
美浜打瀬小	年度初めに学力向上アクションプランの周知を図り、学校全体で基礎基本の定着に取り組んだ。前年度の学力テストの結果を元に、学年単位で課題となる点を話し合い、習得が難しい学習は何なのか、どのように指導したらよいかを明確にし、学力向上アクションプランに反映してきた。朝自習や日々の授業で取り組む中で、徐々に子どもたちは基礎基本の定着がみられるようになり、学習意欲の向上にもつながっていった。今後も年度末に学年毎に学習を振り返り、次年度の取組にいかしていきたい。
磯辺小	昨年度までの算数の研究から、比較検討の場面において、図や式、言葉を使って説明するようしたり、立式の根拠などに焦点を当てて考えることにより、思考・判断・表現の充実を図った。また理科では、昨年度から配備されたGIGAタブを活用し、今まではノートに考えをなかなか書けなかった児童でも、他の児童の考えを参考にすることで、自分の考えを書くことができるようになった。また、発表ノートなどを活用することにより、実験を比較したり、改善したりすることができるようになってきている。国語では、朝の時間に読書タイムや辞書引きの時間を作ることによってたくさんの言葉に触れ、語彙力を高めるように指導している。語彙力がつくことで、読む力や記述する力につながっていると考えられる。

イ 中学校

学校名	取組内容
蘇我中	定期テスト計画の振り返り項目を見直し、生徒自身が自ら課題を見だし、次回の定期テストに向け長期間の見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、学習相談を実施することで、生徒個々の問題の解決につなげた。また、定期テスト2週間前の朝自習が、学習の習慣化につながったと考える。国語では、漢字テストを定期的実施し、基礎学力の定着を生徒自身が定期的振り返ることができる機会を設定した。数学では、ICTを活用したわかりやすい授業の展開、教え合い学習の充実と質問しやすい雰囲気づくり、自分に合った(習熟度)課題選択による基礎学力の向上により苦手意識と数学嫌いの克服に努めた。理科では、科学的な根拠をもって、論理的に考える力の定着を図るために、実験のレポートを作成する際、毎回予想を書かせて実験への見通しを持たせている。また、結果から考察を書く時には、そう考えた根拠を書くことを意識させている。
轟町中	全教科で目標を明確に提示することを心がけている。特に国語科では、どんなことができるようになればよいか、観点ごとにより具体的な目標を示し、学び方を身に付けられるような授業を意識している。また数学科では、「見通し」と「振り返り」の活動を意図的に設定している。授業の初めに立てた「見通し」を検証する形で進め、終わりに活用問題で振り返ることを積み重ねてきた。
稲毛中	本校では学力向上アクションプランにもとづき、各教科において成果と課題を把握し、日常的に授業改善を図っている。千葉県学力状況調査や全国学力・学習状況調査の結果についても全職員で共有し、自校の課題を明確にした。また、研究主任がイニシアチブをとり学習と生活のアンケートを生徒に実施し、各教科の授業や生徒の意識についての意見を集約している。その結果も含めた教科部会と全体研修会を適宜行い、各教科の課題と具体的な改善策を考えている。全体研修会の中では、他教科のアンケート結果やそれに伴う教科の課題や取組なども確認することができた。各教科の課題を集約することで、自校の課題を再確認することができた。以上のことが向上の要因であると考えられる。なお、具体的に数学では、振り返りの時間を大切にして、自分のわかった、わからないを整理し、自分の課題を明確にしたり、気を付けるポイントを理解する活動を大切にしたりしている。国語では、GIGAタブを積極的にグループワー

	クや発表の機会に活用し、自分の意見を発表する場を増やし、全員の意見を確 認し吸い上げながら展開する授業を増やしている。
朝日ヶ丘中	学力向上アクションプランを職員全員で共有し、それぞれの教科で課題を改 善することを心がけた。また、定期テスト前の学習相談や夏休み中の学習相談 では、個別対応に力を入れ、それぞれの生徒にとって必要な支援をできるよ うにした。さらに定期テスト2週間前からは、家庭学習ノートを点検し、生徒の 学習状況を把握し、学習方法のアドバイスをできるようにした。国語の授業で は毎時間、漢字練習に取り組み、理科や数学の授業では、小テストを多く入 れ、生徒の学習意欲を高めた。特に数学の小テストは、習熟度別に設定され ており、生徒が自分のレベルに合わせた問題に挑戦できるようにした。

3 質問紙調査結果概要

【資料5】児童生徒質問紙調査より〔千葉市・全国〕＜令和4年度＞

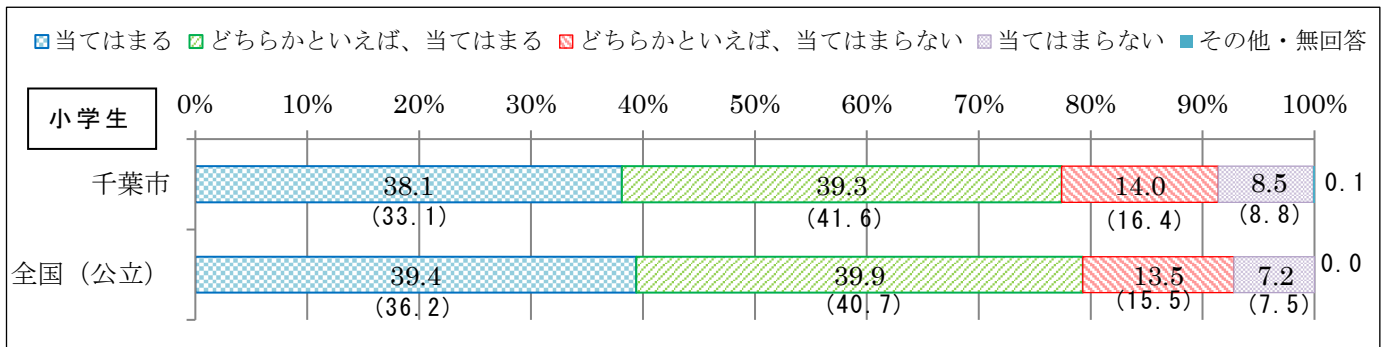
※質問文末の（ ）内の数字は、「児童生徒質問紙調査」の質問番号を示している。

※帯グラフの（ ）の数字は、令和3年度同質問の回答の割合を示している。

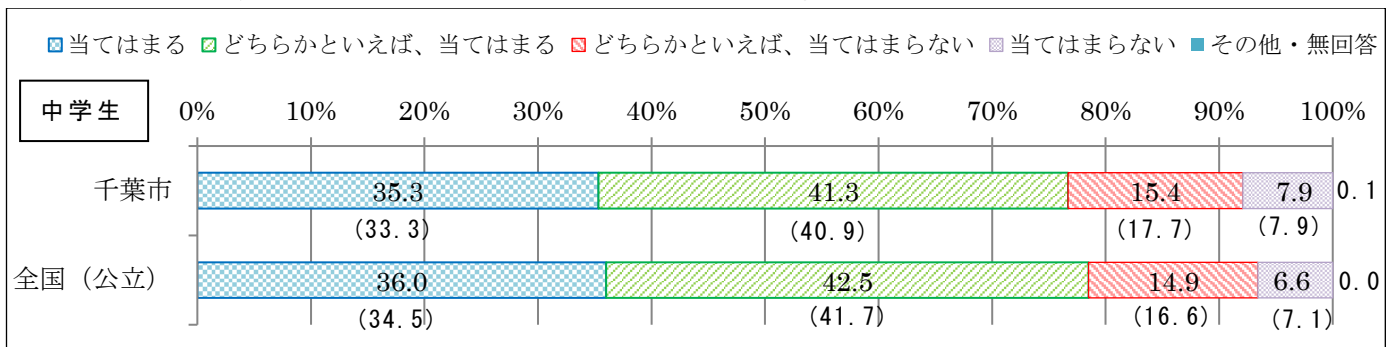
※小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

1 自分には、よいところがあると思いますか。（小7）（中7）



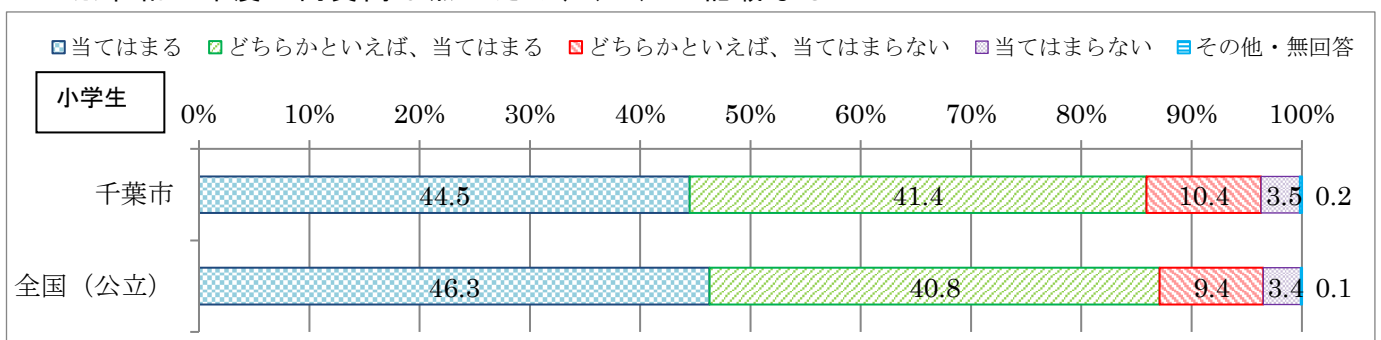
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.4%（全国より1.9ポイント低い）



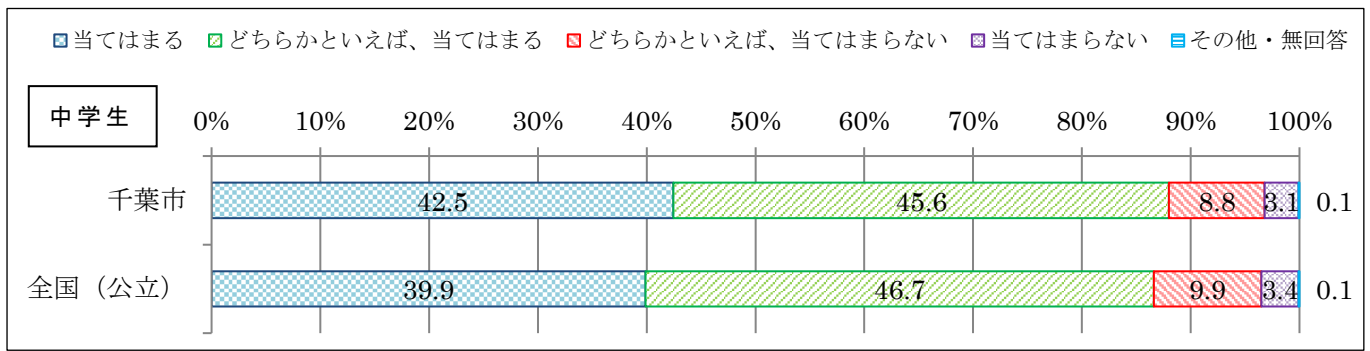
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.6%（全国より1.9ポイント低い）

2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（小8）（中8）

※令和3年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし

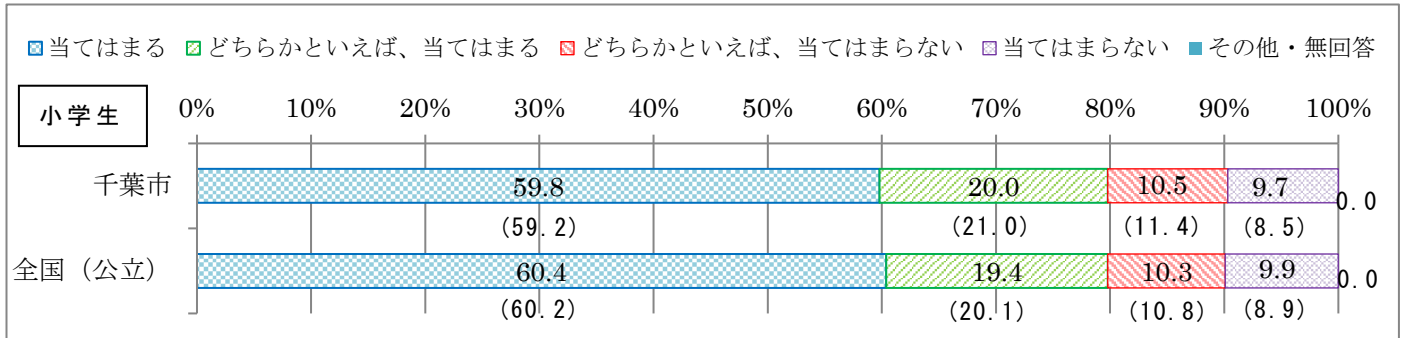


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.9%（全国より1.2ポイント低い）

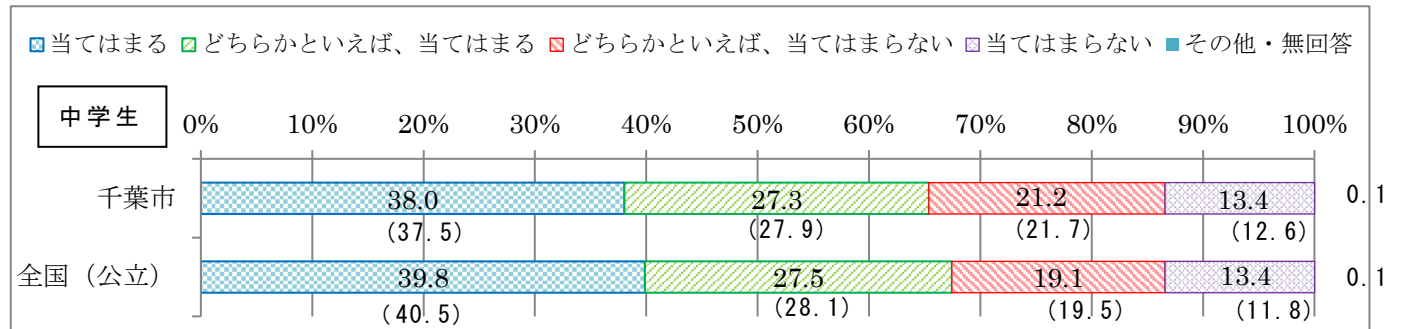


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→88.1%（全国より1.5ポイント高い）

3 将来の夢や目標を持っていますか。（小9）（中9）

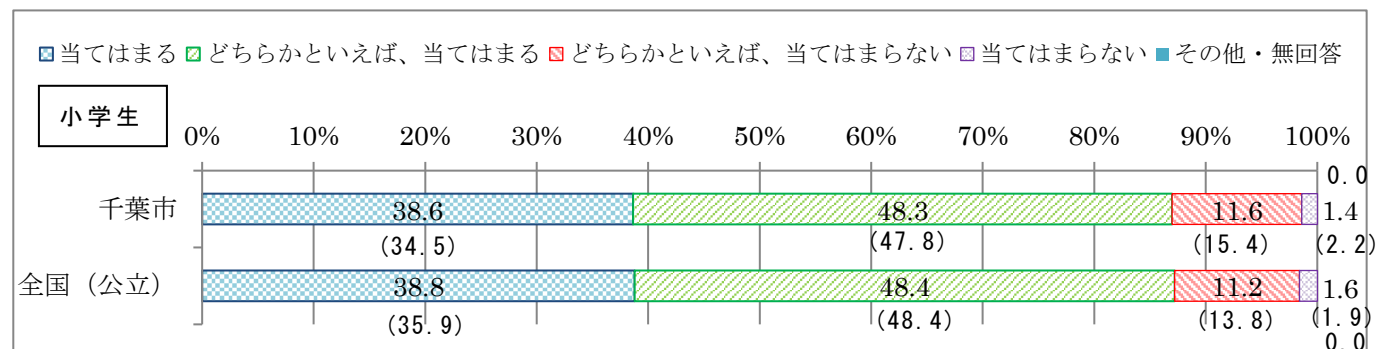


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.8%（全国と同等）

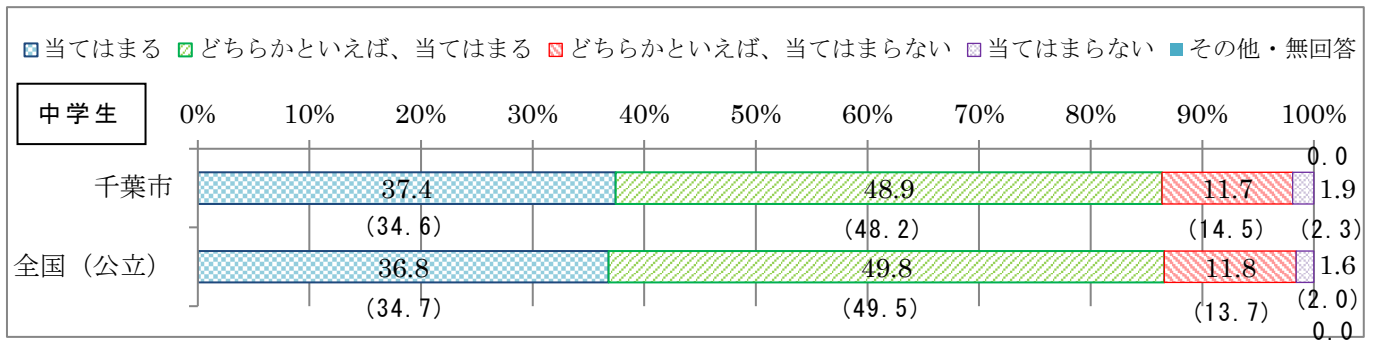


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→65.3%（全国より2.0ポイント低い）

4 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。（小10）（中10）



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.9%（全国より0.3ポイント低い）

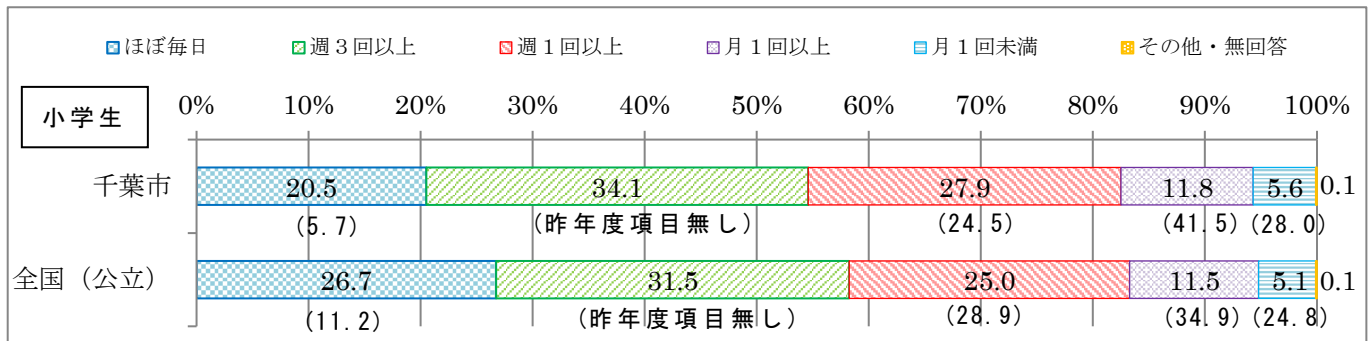


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.3%（全国より0.3ポイント低い）

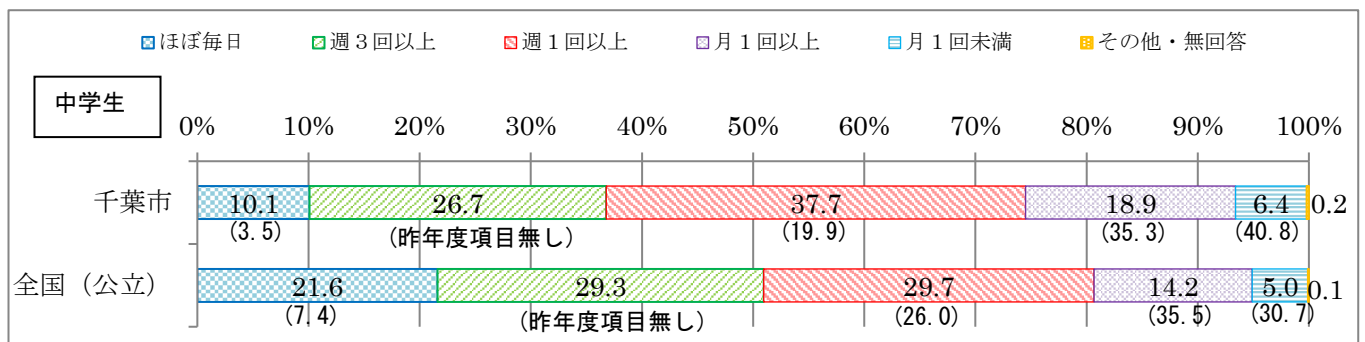
設問1「自分には、よいところがあると思うか」の肯定的な回答の割合は、令和3年度は千葉市・全国ともに落ち込んだが、令和4年度はどちらも向上している。今年度千葉市は小学生・中学生ともに全国より1.9ポイント低い、昨年度より小は+5.0ポイント、中は+2.0ポイントである。新設問2「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」は小は-1.2ポイント、中は+1.5ポイントであった。小学校段階で教職員がさらに児童のよさを認め、自己肯定感を高めていくことが大切である。設問3「将来の夢や目標を持つこと」については、小学生では肯定的な回答が8割程度である。キャリア教育を進めている成果と考えられる。設問4「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」については肯定的な回答が小中学生ともに85%を超えており、昨年度からも向上している。しかし、約13%は否定的な回答をしていることを踏まえ、引き続き主体的に取り組む機会や計画を立てて実行するような機会を増やしていくことで、達成感や成就感をもたせられるようにしていく必要がある。

〔ICT機器の活用に関する意識〕

5 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。（小32）（中32）



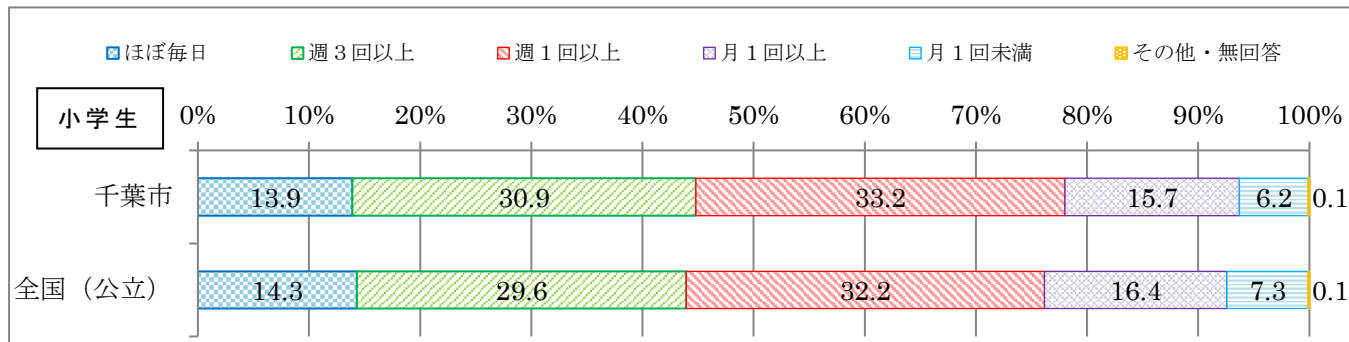
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→82.5%（全国より0.7ポイント低い）



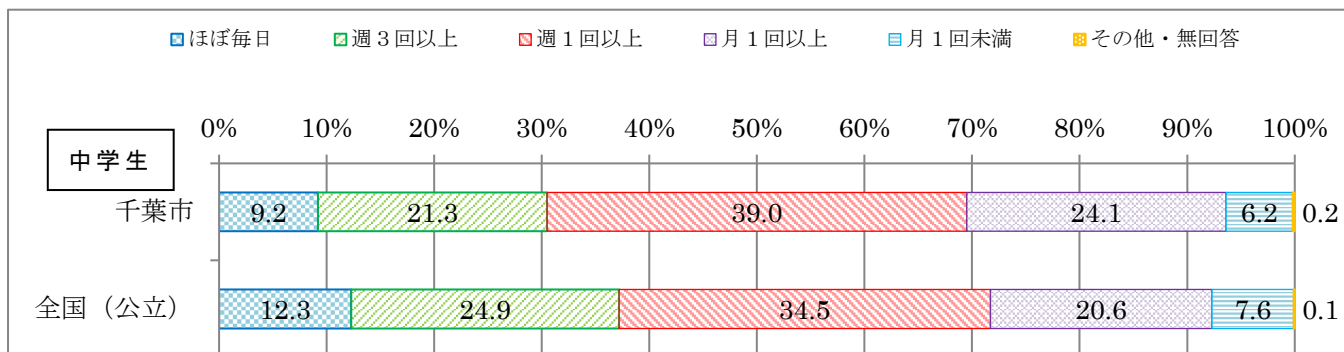
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→74.5%（全国より6.1ポイント低い）

6 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(インターネット検索など) (小33) (中33)

※令和3年度に同質問は無いため、() の記載なし



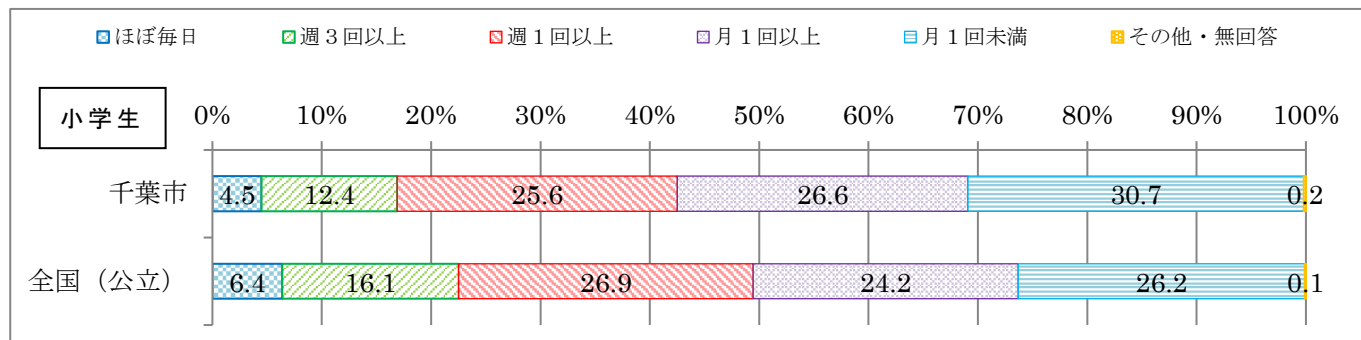
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→78.0% (全国より1.9ポイント高い)



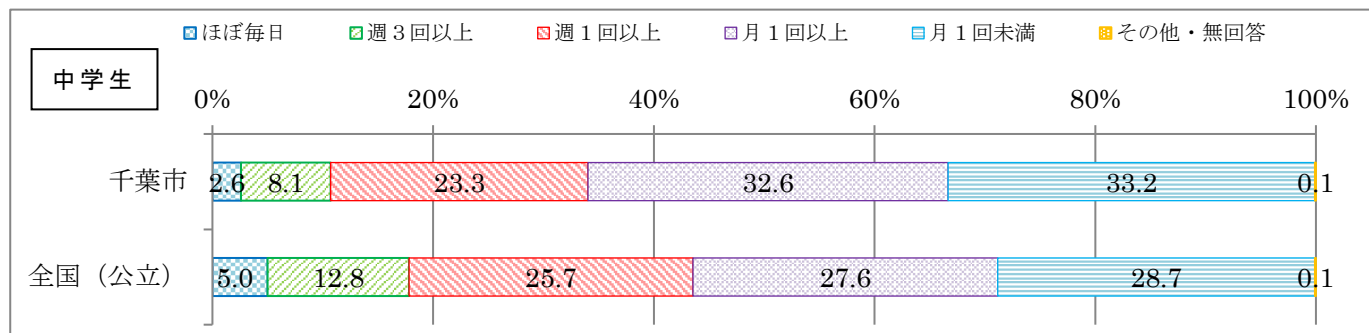
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→69.5% (全国より2.2ポイント低い)

7 学校で、学級の友達(生徒)と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(小34) (中34)

※令和3年度に同質問は無いため、() の記載なし



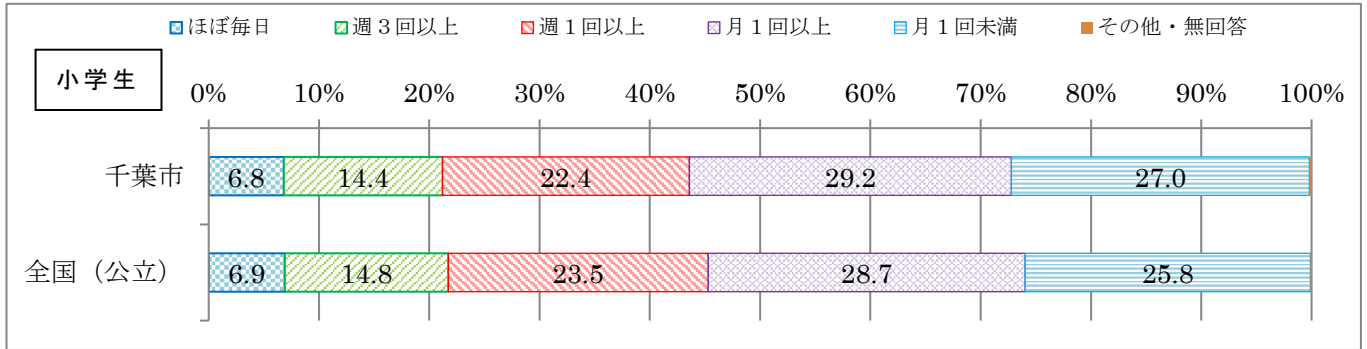
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→42.5% (全国より6.9ポイント低い)



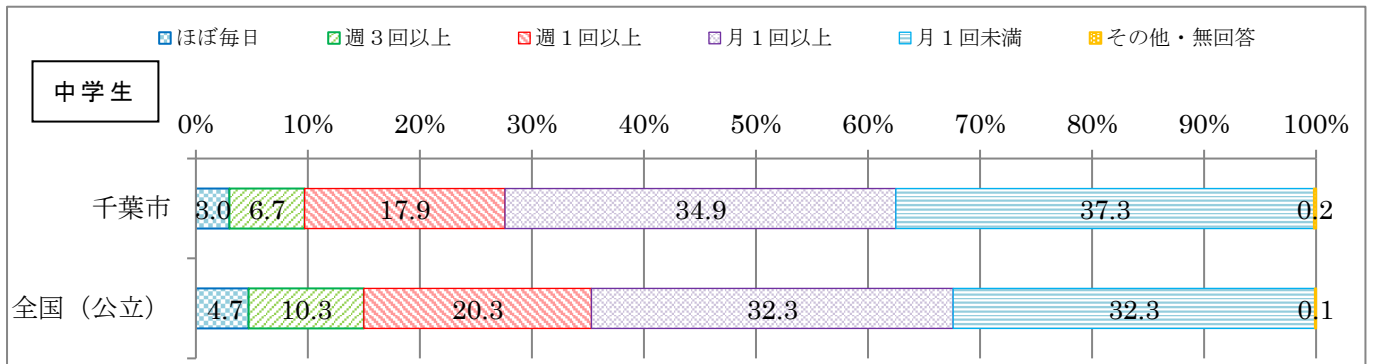
・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→34.0% (全国より9.5ポイント低い)

8 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(小35)(中35)

※令和3年度に同質問は無いため、()の記載なし

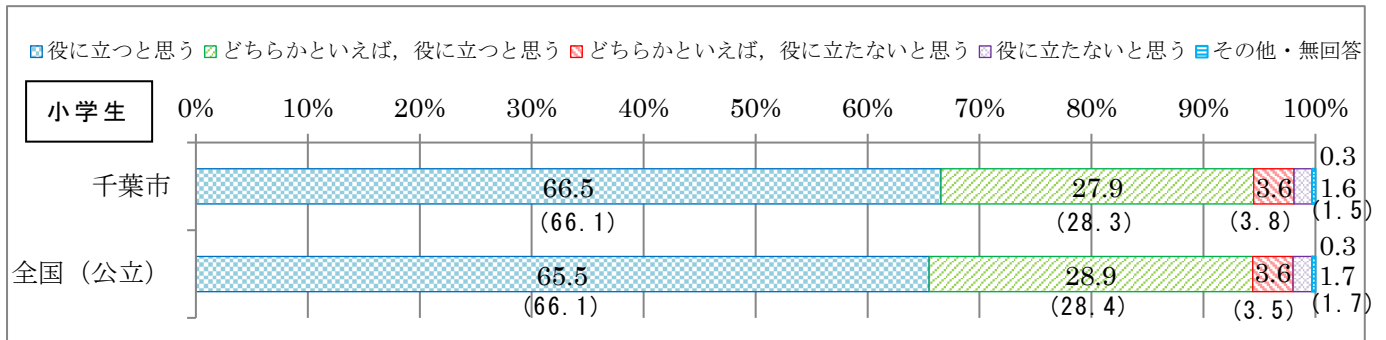


・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→43.6% (全国より1.6ポイント低い)

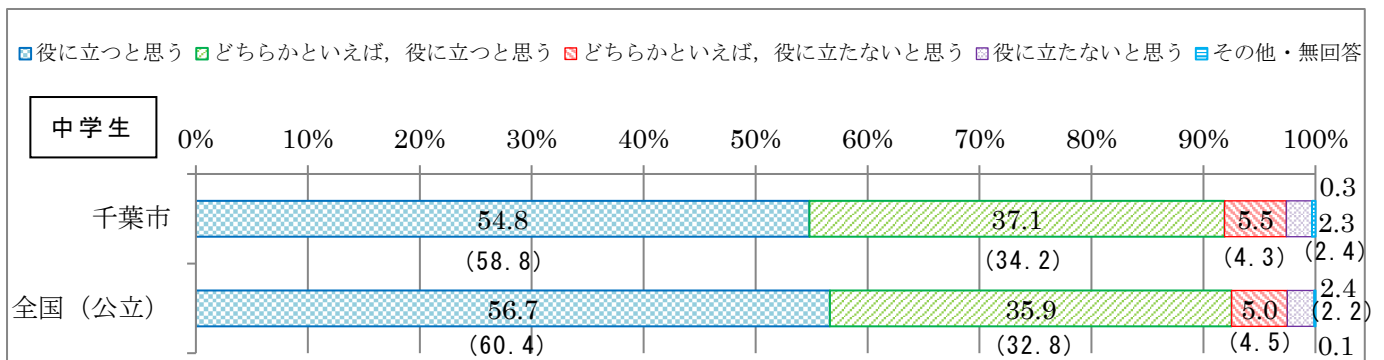


・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→27.6% (全国より7.7ポイント低い)

9 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。(小36)(中36)



・役に立つと思う、どちらかといえば、役に立つと思う→94.4% (全国と同程度)



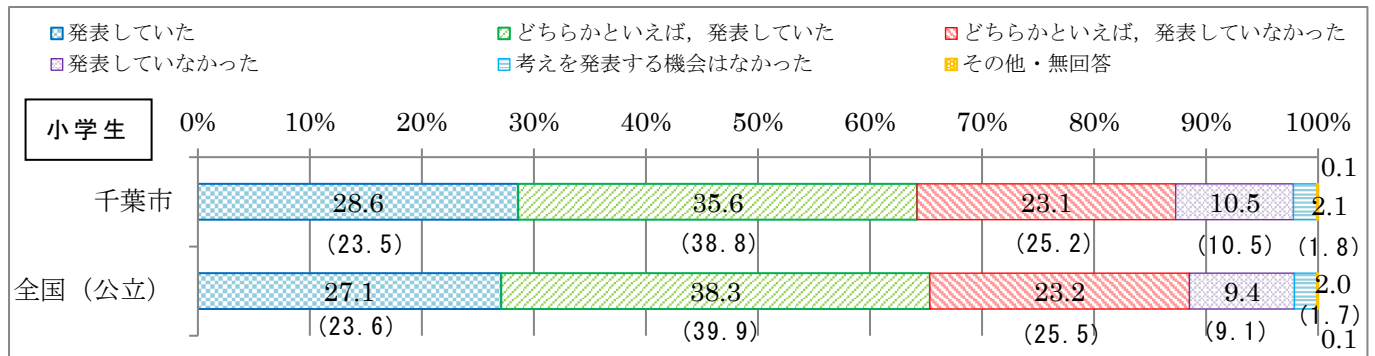
・役に立つと思う、どちらかといえば、役に立つと思う→91.9% (全国より0.7ポイント低い)

昨年度からGIGAスクール構想の基、1人1台タブレットPCと高速ネットワークが整備されたことにより、ICT機器の使用に関する設問が増えた。

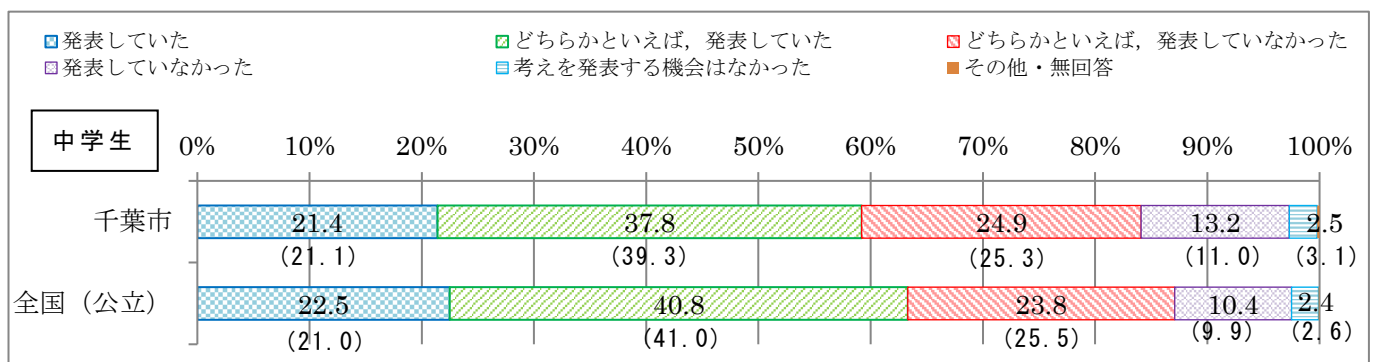
設問5「ICT機器をどの程度使用してきたか」については、昨年度は、週1回以上の使用が小学生30.2%（昨年度全国平均より-9.9ポイント）、中学生23.4%（昨年度-10.0ポイント）であったが、今年度小学生では82.5%（全国平均より-0.7ポイント）、中学生では74.4%（同-6.1ポイント）となり、大幅に向上した。設問6「自分で調べる場面」におけるICT機器の使用に関する質問については、週1回以上活用している割合が、小学生では78.0%、中学生では69.5%と定期的に活用していることが分かる。一方で、設問7・8「意見交換をする場面」「自分の考えをまとめ、発表する場面」におけるICT機器の使用に関する内容では、週1回以上の使用は、小学生では4割程度、中学生では3割程度と低く、特に中学生で全国平均を大きく下回っている。設問9にある「ICT機器の使用は勉強の役に立つ」と回答する児童・生徒が9割以上いることを考えると、調べ学習以外のICTの効果的な活用を早急に進めていく必要がある。

〔主体的・対話的で深い学びに関する意識〕

10 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
（小38）（中38）

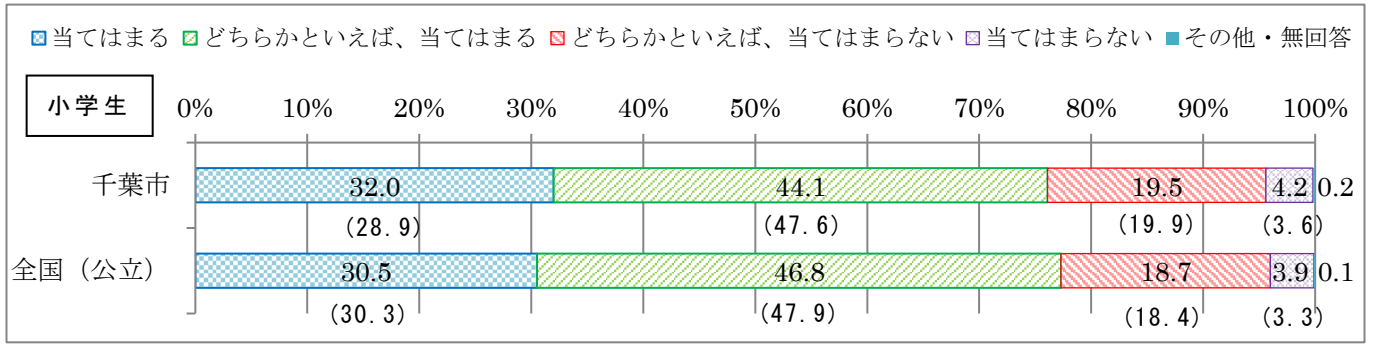


・発表していた、どちらかといえば、発表していた→64.2%（全国より1.2ポイント低い）

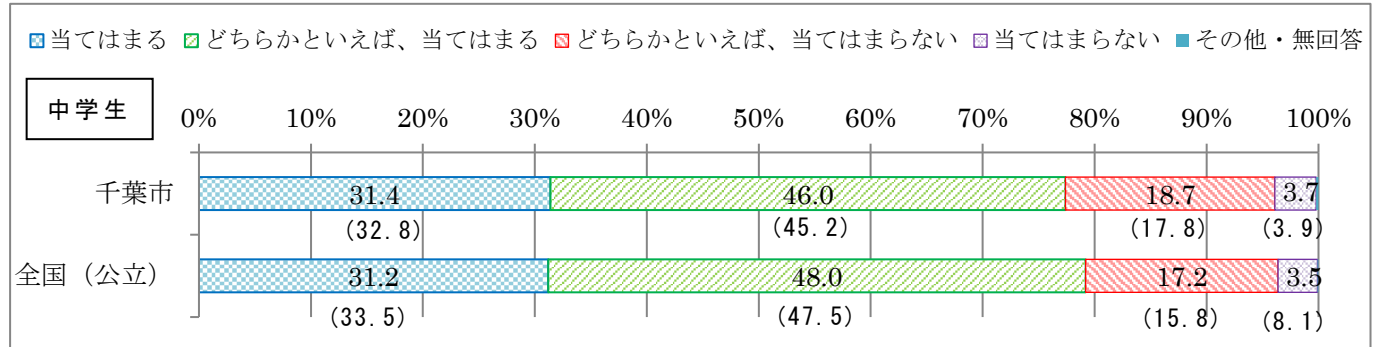


・発表していた、どちらかといえば、発表していた→59.2%（全国より4.1ポイント低い）

11 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（小39）（中39）



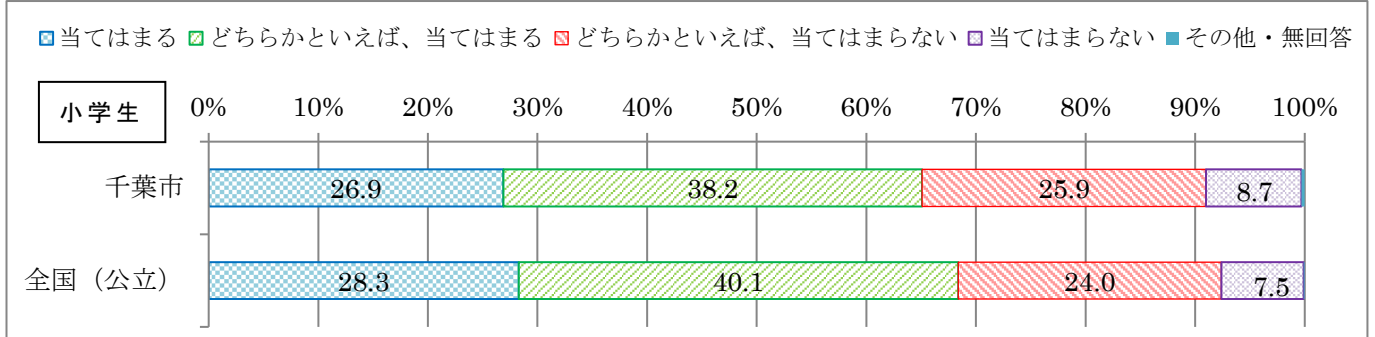
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.1%（全国より1.2ポイント低い）



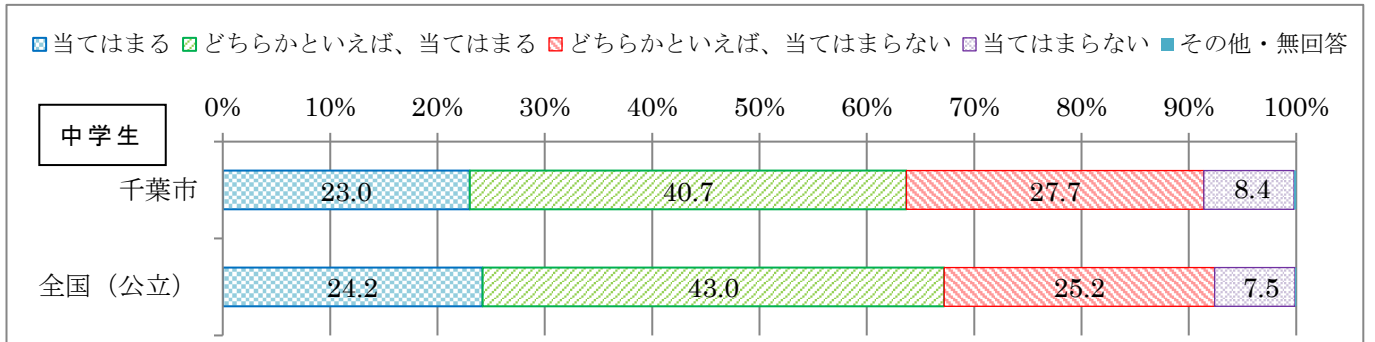
・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→77.4%（全国より1.8ポイント低い）

12 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか。（小41）（中41）

※令和3年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし

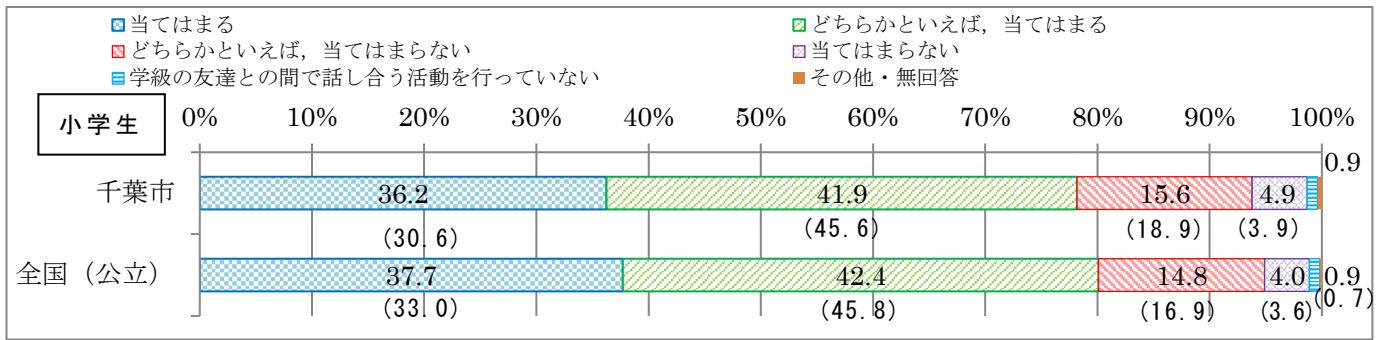


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→65.1%（全国より3.3ポイント低い）

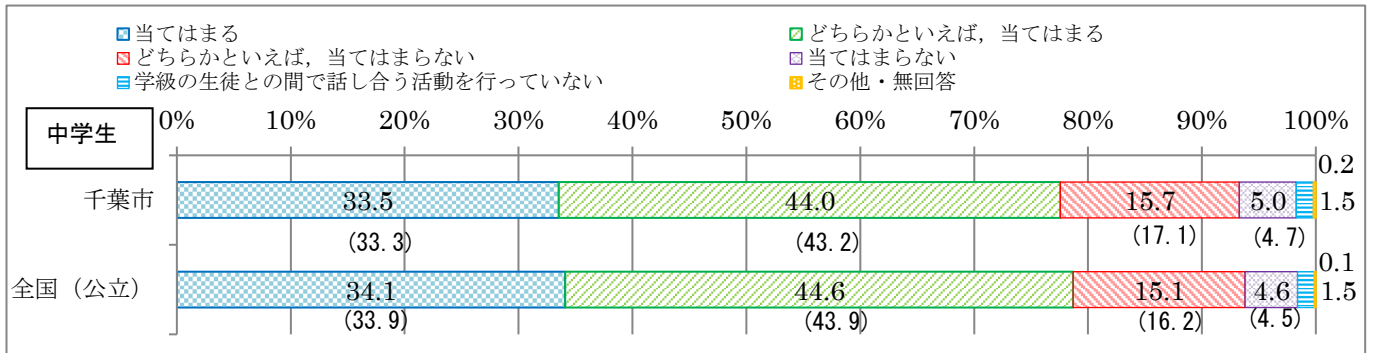


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→63.7%（全国より3.5ポイント低い）

13 学級の友達との間（学級の生徒との間）で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。（小 43）（中 43）



・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→78.1%（全国より2.0ポイント低い）



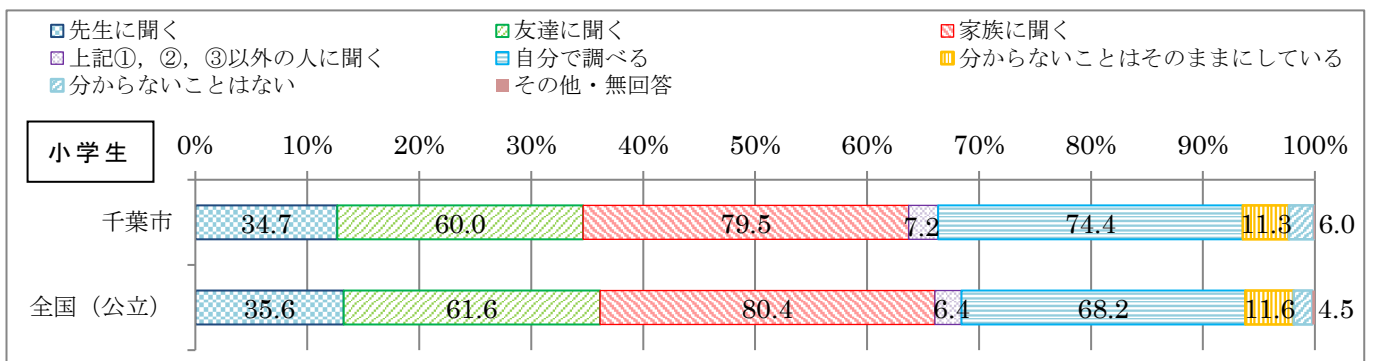
・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→77.5%（全国より1.2ポイント低い）

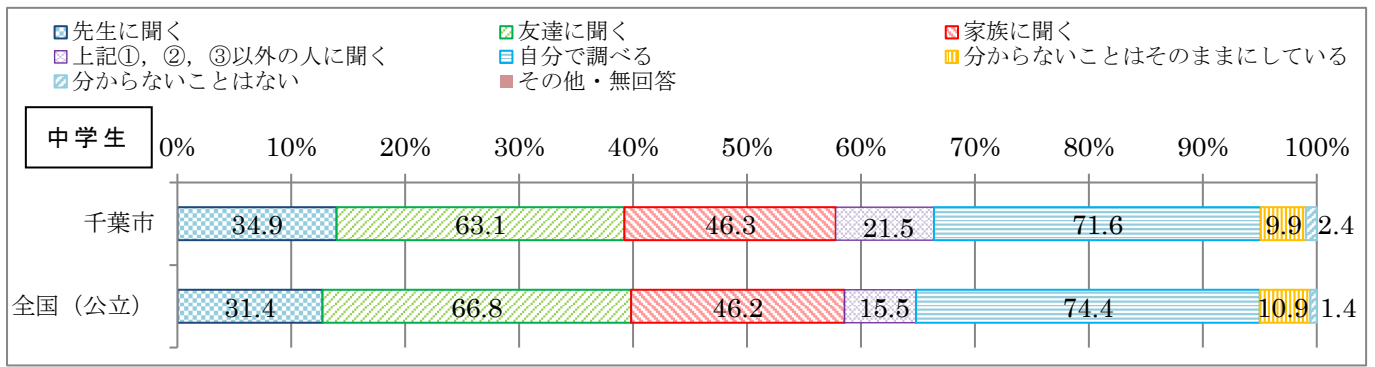
設問10「資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」は全国平均より小学生-1.2ポイント、中学生-4.1ポイントであり、小学生は昨年度より1.9ポイント向上しているが中学生は1.7ポイント低下している。設問11「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」も小中学生ともに全国平均よりやや低く、昨年度よりやや低下している。新設問12「自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動を行う」は肯定的回答が小中学生ともに6割を超えているが、全国平均より3ポイント程度低く、主体的に取り組む、工夫して発表する、新しいものを創り出すといった部分が課題である。児童生徒が学習の目標や課題意識をもち、自身の学習状況を把握しながら解決に向けて取り組むことができる「主体的な学習」となるよう教師の授業改善が必要である。設問13「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすること」については、肯定的な回答の割合が、小中学生どちらも昨年度よりも向上している。今後も「深い学び」の実現に向け、各教科の学習の中で対話的な学びを意図的・計画的に取り入れていくことが望まれる。

【家庭での学習に関する意識】

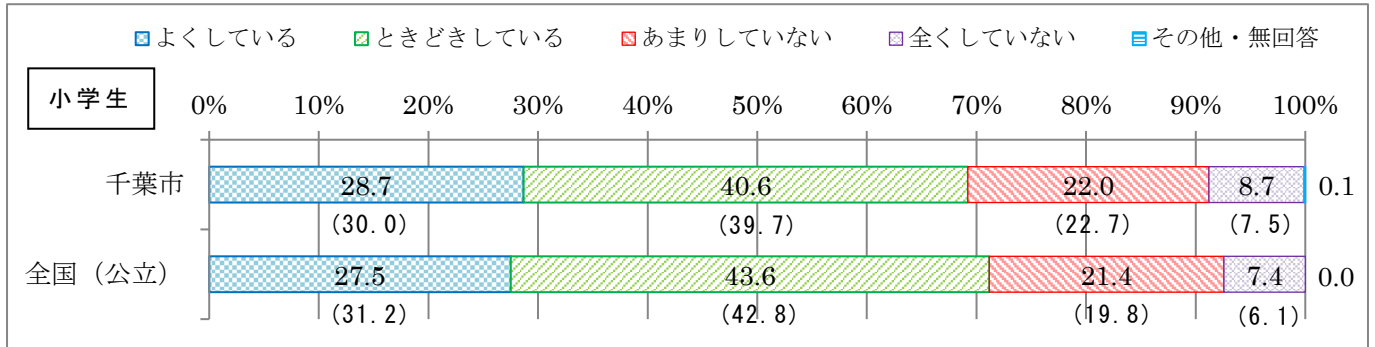
14 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。（複数選択）（小 19）（中 19）

※令和3年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし

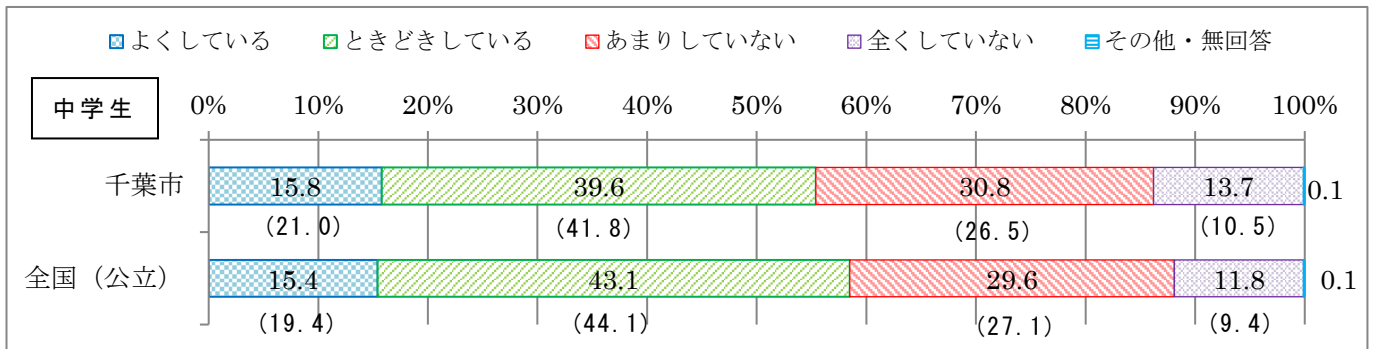




15 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(小 20) (中 20)

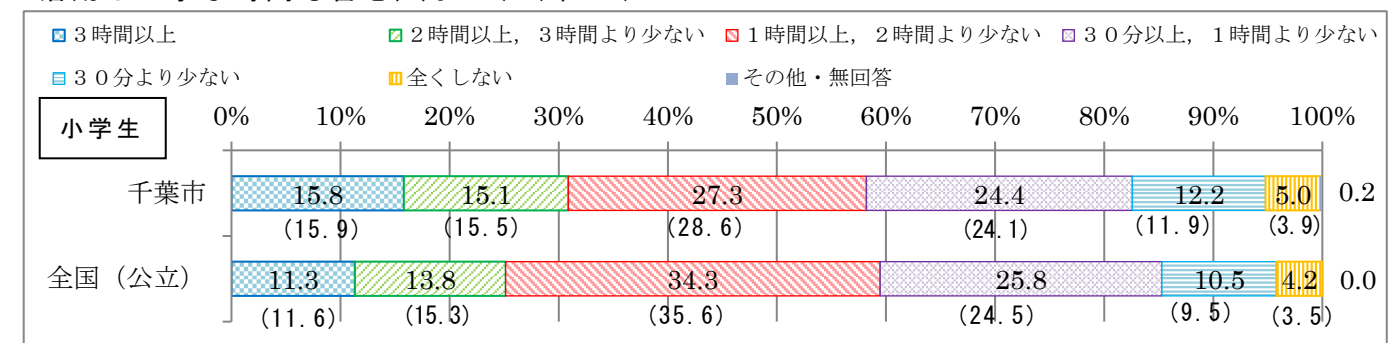


・よくしている、ときどきしている→69.3% (全国より 1.8 ポイント低い)



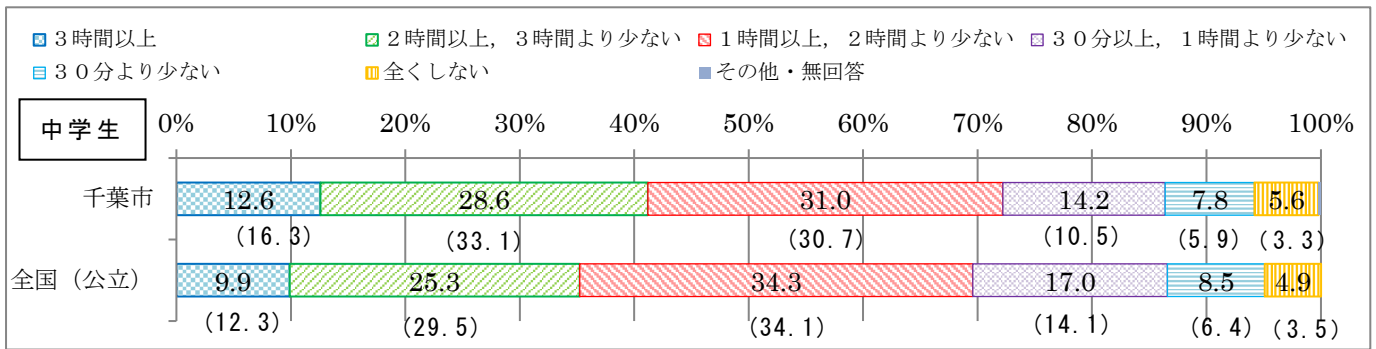
・よくしている、ときどきしている→55.4% (全国より 3.1 ポイント低い)

16 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(小 21) (中 21)



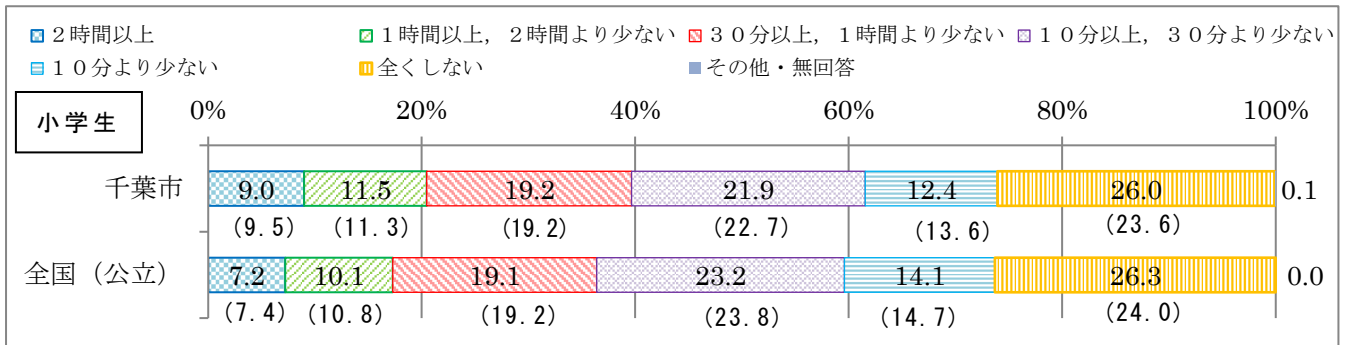
・1日2時間以上勉強をしている→30.9% (全国より 5.8 ポイント高い)

全くしない→5.0% (全国より 0.8 ポイント高い)

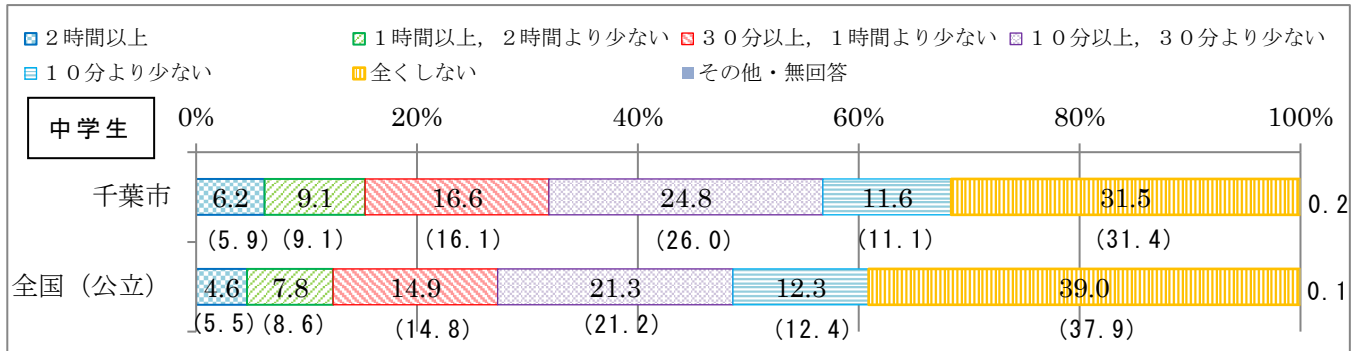


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→41.2% (全国より6.0ポイント高い)
- 全くしない→5.6% (全国より0.7ポイント高い)

17 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(小23)(中23)



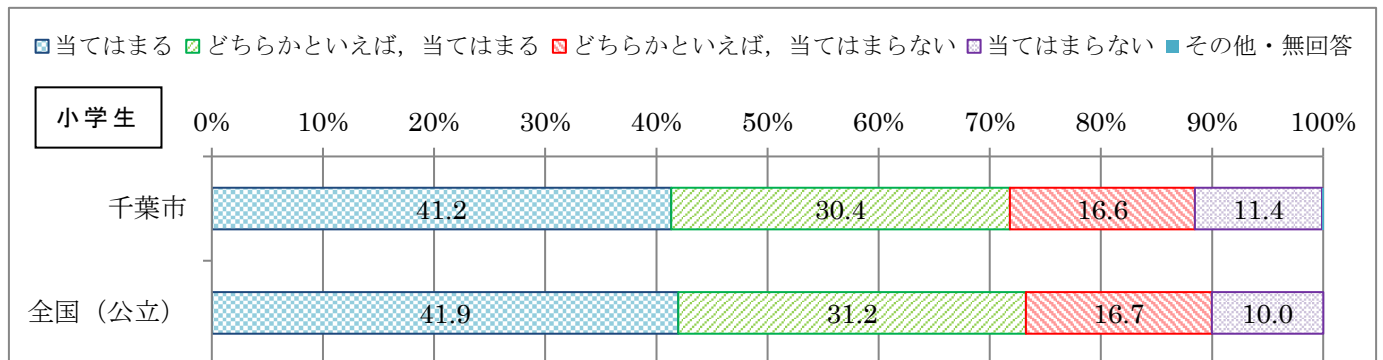
- ・ 1日1時間以上読書をしている→20.5% (全国より3.2ポイント高い)
- 全くしない→26.0% (全国より0.3ポイント低い)



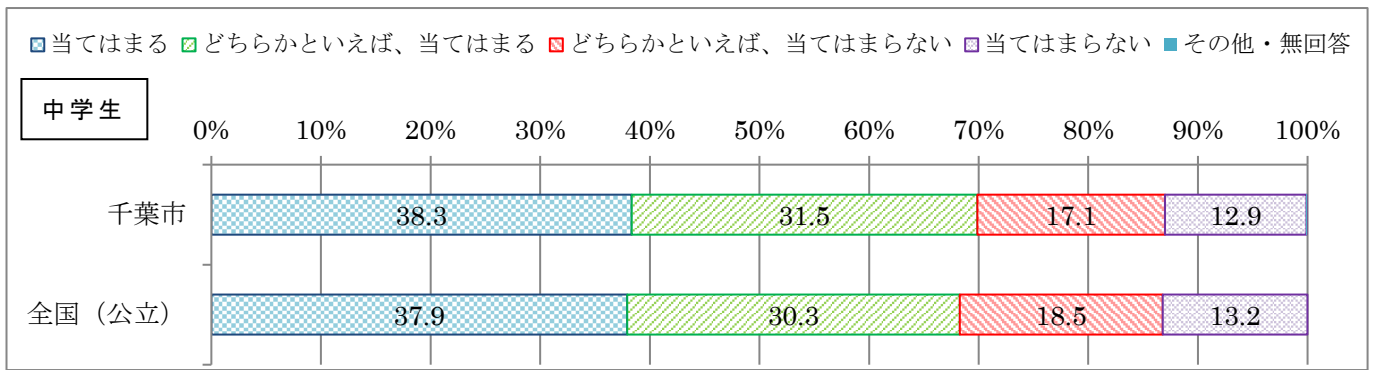
- ・ 1日1時間以上読書をしている→15.3% (全国より2.9ポイント高い)
- 全くしない→31.5% (全国より7.5ポイント低い)

18 読書は好きですか。(小26)(中26)

※令和3年度に同質問は無いため、()の記載なし



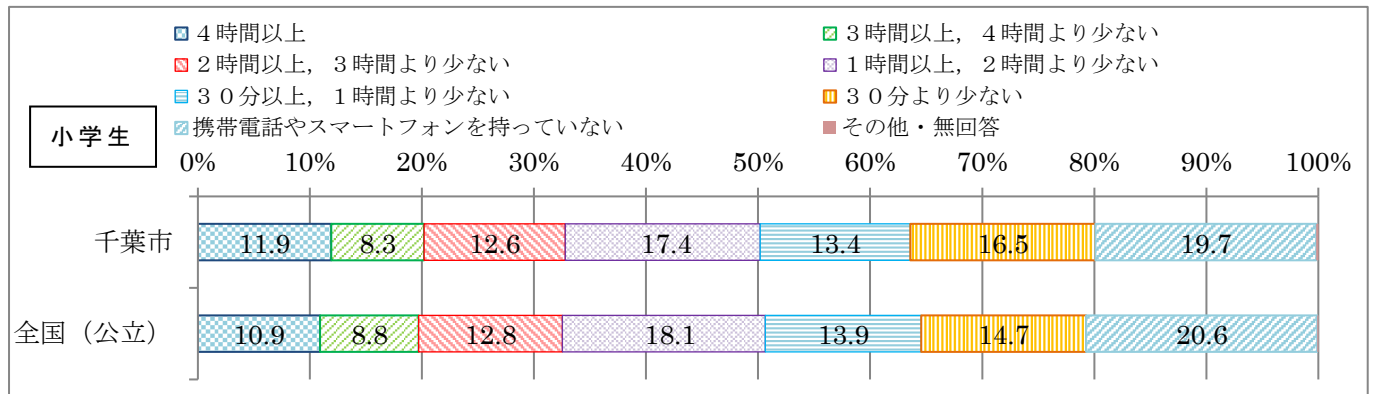
- ・ 当てはまる、どちらかというとも当てはまる→71.6% (全国より1.5ポイント低い)



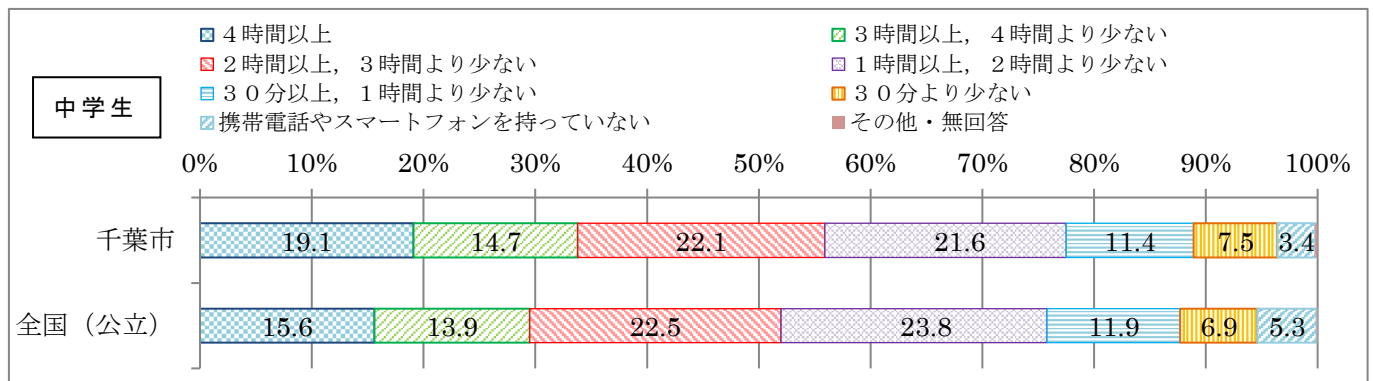
・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→69.8%（全国より1.6ポイント高い）

19 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）（小6）（中6）

※令和3年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし



・1日2時間以上（4時間以上・3時間以上、4時間より少ない・2時間以上、3時間より少ない）→32.8%（全国より0.3ポイント高い）



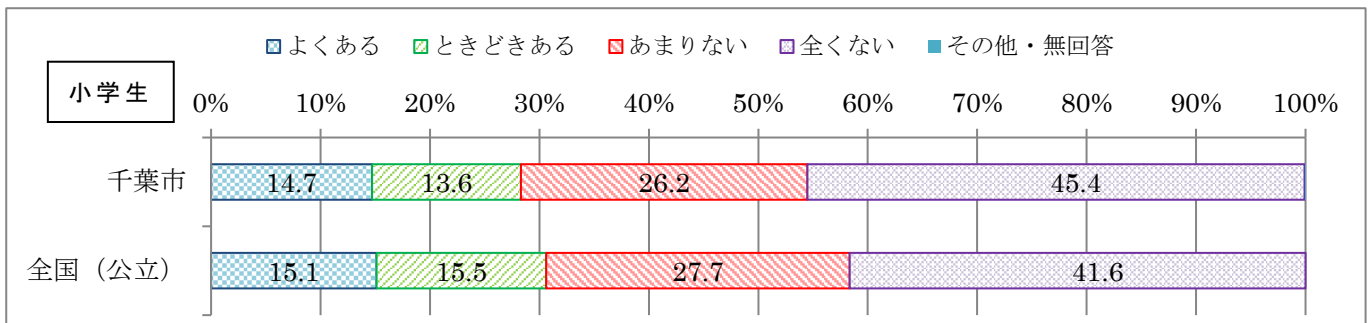
・1日2時間以上（4時間以上・3時間以上、4時間より少ない・2時間以上、3時間より少ない）→55.9%（全国より3.9ポイント高い）

新設問 14「家で学校からの課題で分からないことがあったときどのようにしているか」について、小中学生とも全国と同じ傾向であるが、小学生は「自分で調べる」が全国平均より 6.2 ポイント、中学生は「先生、友達、家族以外の人に聞く」が 6.0 ポイント高くなっている。設問 15「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」への肯定的な回答率は、小学生は 69.3% で全国よりやや低いものの、大きな差はない。一方中学生は 55.4% で全国より 3.1 ポイント低く、昨年度より 7.4 ポイント低下している。中学生は令和元年度の肯定的回答率が 48.6% であったので昨年度が高かったとも言えるが、設問 16「普段 1 日 2 時間以上学習している児童生徒（学習塾等を含む）」の中学生の割合が全国より 6.0 ポイント高いことから推測すると、自分で計画を立てて学習するというよりは学習塾等での学習をする生徒が多いと考えられる。家庭での学習が「30 分より少ない」「全くしない」割合は小学生が 17.2%（昨年度 15.8%）、中学生が 13.4%（昨年度 9.2%）であり小中学生ともに増加している。家庭での学習状況の二極化が進んでいるので、課題の出し方を工夫するなど、家庭での学習が習慣化していくような手立てが必要である。設問 17「1 時間以上読書をしている割合」は小中学生ともに全国よりもそれぞれ 3.2 ポイント、2.9 ポイント高くなっている一方で、新設問 18「読書は好きか」の小学生の割合が全国より 1.5 ポイント低くなっていることが懸念される。設問 19「平日における携帯電話やスマートフォンでの SNS や動画視聴の時間が 1 日 2 時間以上の割合」は小学生は 32.8%（全国より +0.3）、中学生では 55.9%（全国より +3.9）と中学生の 6 割弱が 2 時間以上視聴している。健康面や生活時間のバランスを考慮し、適切に ICT 機器を使用できるようにしていく必要がある。

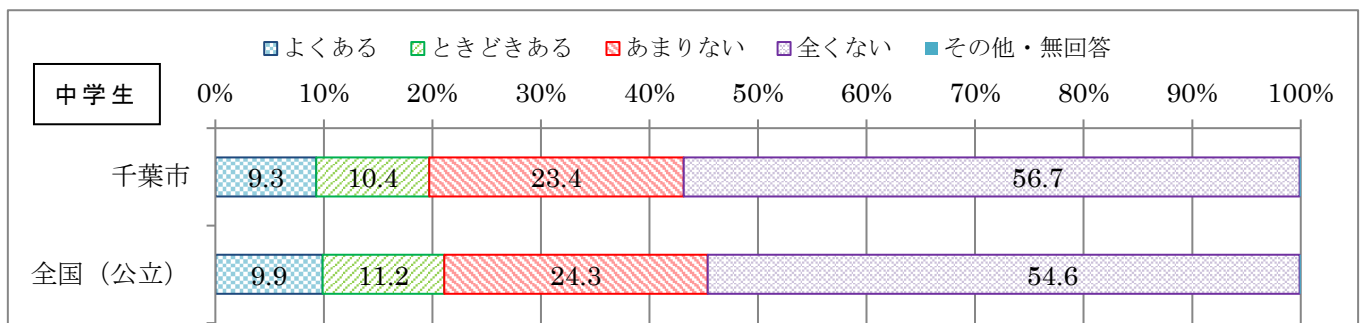
〔地域・社会との関わりに関する意識〕

20 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。（習い事の先生は除く）（小 28）（中 28）

※令和 3 年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし

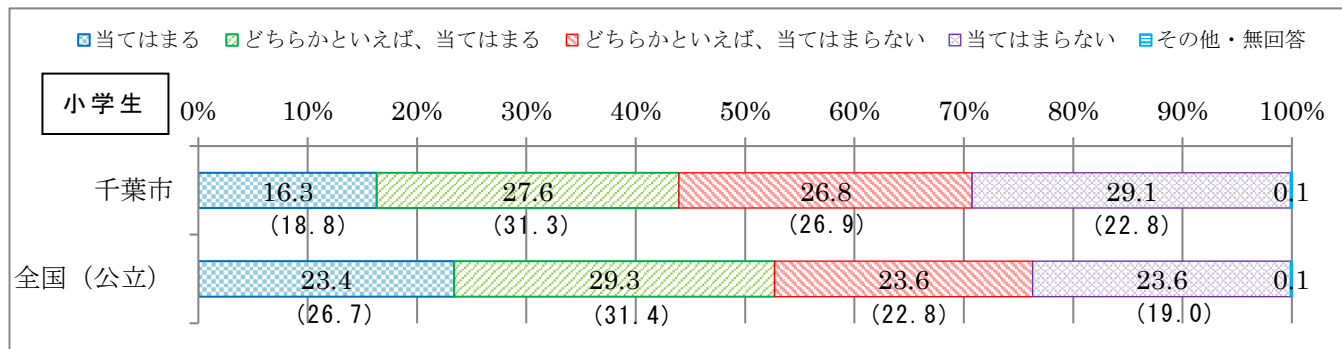


・よくある、ときどきある→28.3%（全国より 2.3 ポイント低い）

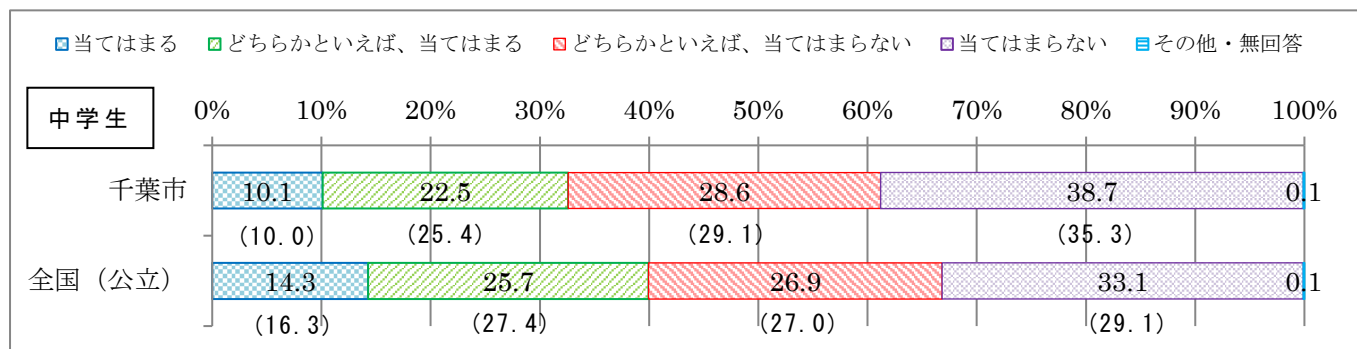


・よくある、ときどきある→19.7%（全国より 1.4 ポイント低い）

21 今住んでいる地域の行事に参加していますか。(小 29) (中 29)

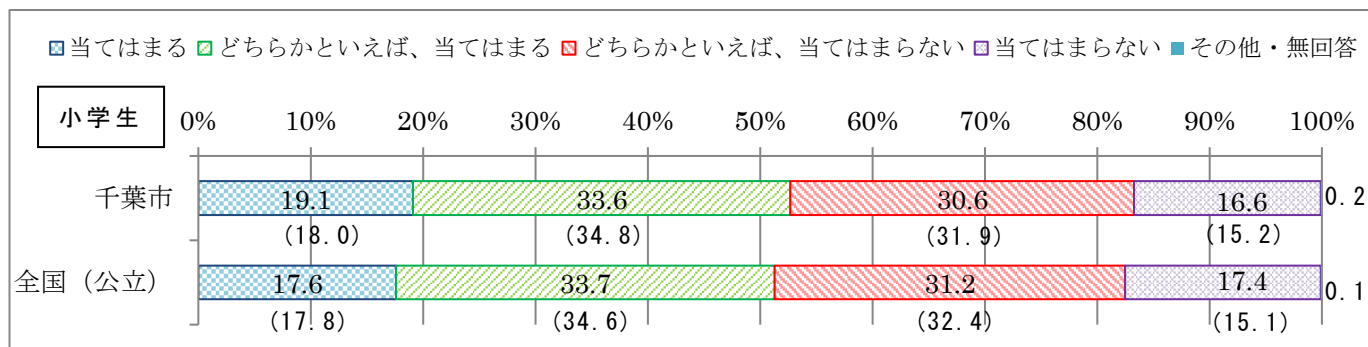


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→43.9% (全国より 8.8 ポイント低い)

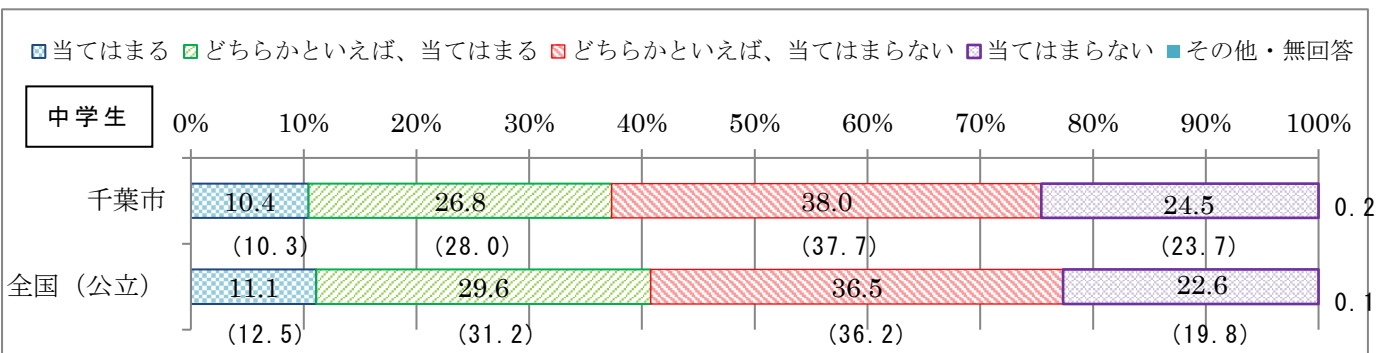


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→32.6% (全国より 7.4 ポイント低い)

22 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(小 30) (中 30)



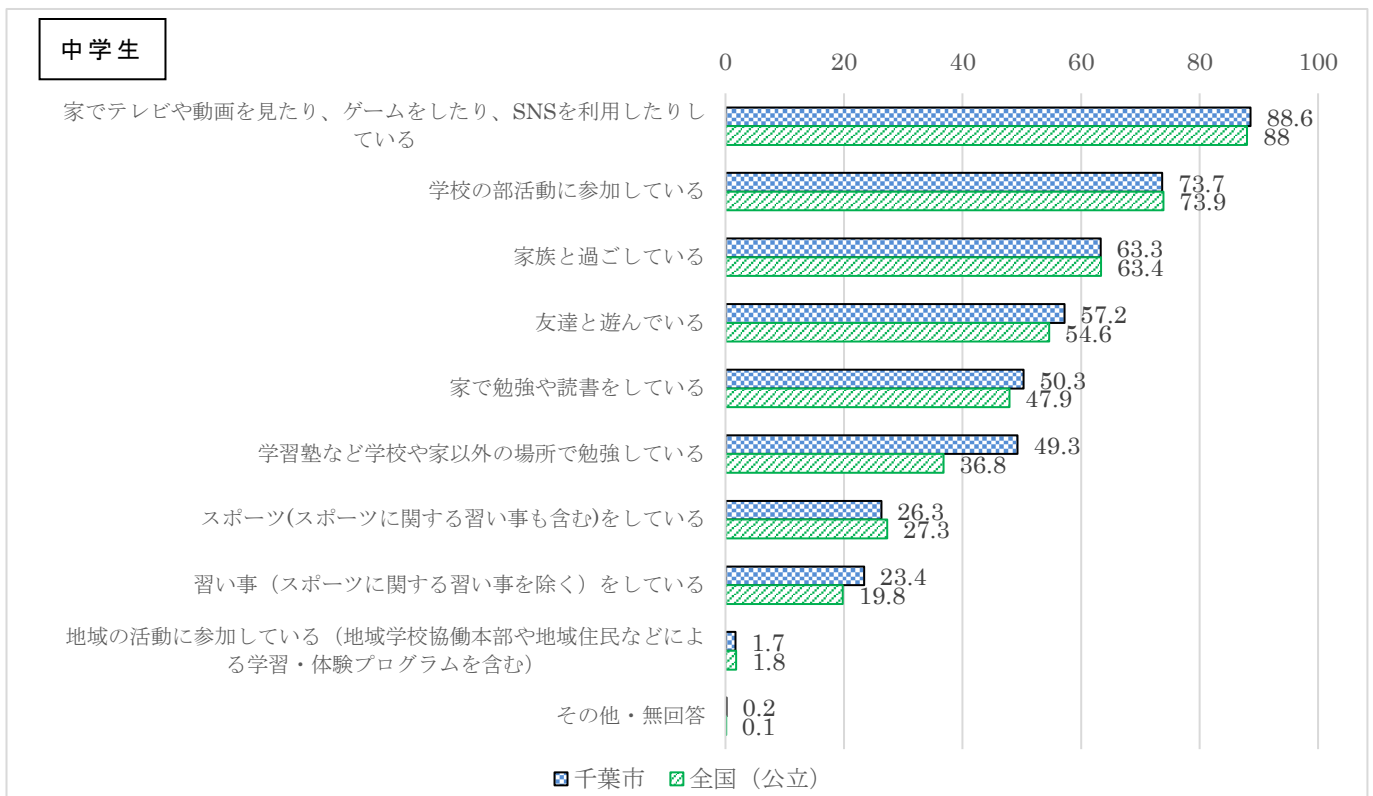
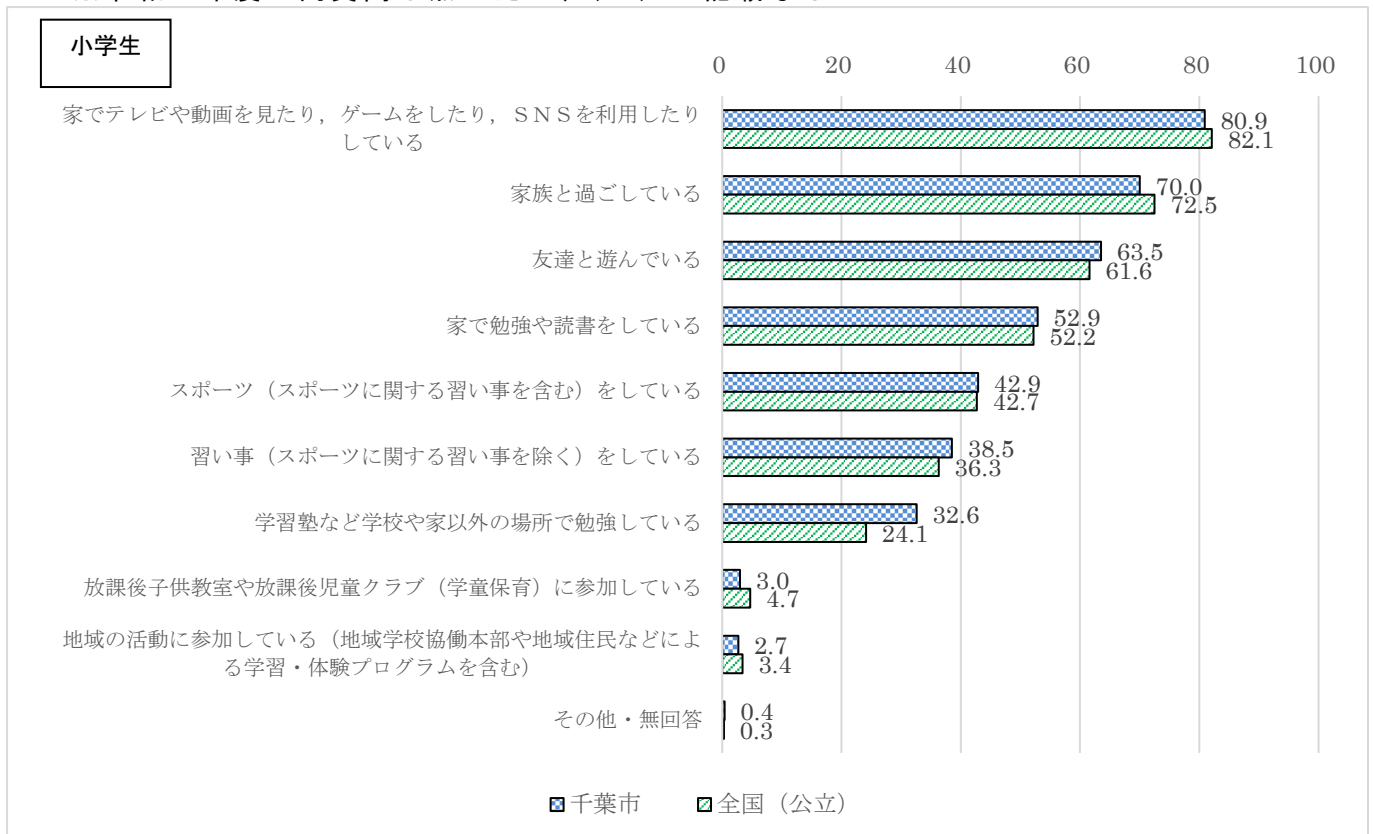
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→52.7% (全国より 1.4 ポイント高い)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→37.2% (全国より 3.5 ポイント低い)

23 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。(複数選択)(小31)(中31)

※令和3年度に同質問は無いため、() の記載なし



新設問 20「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んでもらったりすることがあるか」は肯定的回答が小学生 3 割弱、中学生 2 割弱であり全国平均より低い。部活動地域移行に伴って今後の推移を見ていく必要がある。設問 21「今住んでいる地域の行事に参加しているか」についての肯定的な回答率は、小学生で 43.9%（昨年度 50.1 ポイント）、中学生 32.6%（昨年度 35.4 ポイント）低下している。コロナ禍で地域の行事が中止になっていることが背景にあることが考えられる。設問 22「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」についての肯定的な回答率は小学生で 52.7%と全国平均より高い（+1.4 ポイント）が、中学生は 37.2%と全国平均と比べて低くなっている（-3.5 ポイント）。地域と連携した教育活動のより一層の充実を図っていくとともに、地域の課題に目を向ける学習など、発達段階に応じた地域への関心のもち方を考え、工夫した取組を行っていくことが望まれる。新設問 23「放課後や週末の過ごし方」では小中学生ともに全国と同じ傾向であるが、児童生徒ともに「学習塾など学校や家以外の場所での勉強」（小学生は全国より+8.5 ポイント、中学生では+12.5 ポイント）が全国平均と差が見られた。

4 今後の取組

- (1) 児童生徒の確かな学力の定着を図るため、授業改善を推進する。そのために以下のような取組を行う。
 - 市内全小中学校において、全国及び千葉市学力状況調査の結果等をもとに自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行う。その際、自校の課題に沿った資質能力の育成や発達段階に応じた具体的な取組や指標を立てる等、全職員で共有し、検証と改善を重ねながら次年度以降の学力の向上に生かす。
 - 全国学力・学習状況調査の結果から考察する改善点を示した「指導改善に向けたポイント」や「授業改善のすすめ」を作成し、各学校に配付して、校内研究での活用促進を図る。
 - 主体的・対話的で深い学びの実現のために、自分の考えや思いをもとに自らの発想を広げるような授業づくりの充実が図られるよう学校訪問等を通じて助言する。
 - 教科指導における、1人1台タブレットPCを中心としたICTの効果的な活用の促進を図るとともに「意見交換」や「考えをまとめる」「発表する」等の具体的な活用場面を想定した好事例集を活用し、様々な場面で周知を図る。
- (2) 「教育だよりちば」やWebサイト等を通して、家庭学習の大切さや家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の在り方、スマートフォン等の正しい活用方法等について、広く保護者に発信する。
- (3) 教育委員会関係各課と連携し、自己肯定感を高めるような指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができるような教育活動が図られるように学校に助言する。
- (4) 児童生徒が、地域に関して関心を持つことができるように、地域の様子を調べたり、地域の方々と関わったりする等、地域の様々な資源を活かした活動の充実が図られるように学校に助言する。